

特集：文学の魅力 再発見！

文学エッセイ

“ほんとうの世界”を見せてくれるもの 苦野一徳 2

February 2020

大修館書店

112

時間をかけて読む 滝口悠生 4

とにかく面白くて、楽しくて 金原瑞人 6

高校の国語と文学の可能性 蜂飼耳 8

論考 文学を考える

文学と高校生との幸福な出会いのために 幸田国広 10

記憶を語り歴史を紡ぐ 高橋龍夫 14

——「言語文化」の一基層として

授業実践

読みの視点をキーワードで表す「舞姫」の授業 古川佳奈 18

主体的に読みを進める仕組みとは 杉本紀子 22

——「文学探究」での学びを通して

新課程履修パターン「文学国語」を設置するために 編集部 26

【アンケート】高校生と「読書」「文学」 30

大修館書店の国語便覧・学習辞典のご案内 中面カラーページ

連載

〈新連載〉

青山あり！中国祠墓紀行①…唐玄宗泰陵 平井 徹 33

国語教師のための

古典文法指導講座④ 紫式部にファンレターを書こう① 大倉 浩 40

コトバのひきだし④ はかなく消える「見果てぬ夢」 関根健一 42

コーナー

教室が活発になる

授業のアイデア 国語表現 × ICT活用で前提力向上 金岡辰徳 36

えつらん室... 超高齢社会のリアル／教師のためのスクールソーシャルワーカー入門
レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド／新人教師のための漢文指導入門講座 高校2・3年生編 ... 44

国語のNews & Topics 46

『ほんとうの世界』を見せてくれるもの

とまの いっく
 苦野一徳

熊本大学准教授。専門は哲学・教育学。著書に、『自由』はいかに可能か——社会構想のための哲学『どのような教育が「よい」教育か』『愛』など多数。

今となつては非常に恥ずかしい話なのですが、一〇代後半から二〇代半ば過ぎまで、わたしはずっと、小説家になることを夢見ていました。長編は一〇本ほど、短編や中編は、おそらく四〇本以上は書いたのではないかと思います。

実は小学生の頃の夢はマンガ家になることで、文学をモチーフにした作品も多い手塚治虫の影響から、シェイクスピアの『ハムレット』などをマンガ化したりもしていました。そうしてそのまま、一〇代初め頃から、文学作品に強い興味と憧れを抱くようになったのです。

大学に入ってから、とりわけ西洋文学に惹かれ、ゲーテを『神』と仰ぎ、『若きウェルテルの悩み』を常にポケットに携帯し（これもまた、青臭い恥ずかしい話です）、岩波文庫の赤帯はおそらくその大半を読みました。

文学の、いったい何がわたしを惹きつけたのか。今になって、わたしはその理由がよく分かります。

はあれかしと願う、ある『ほんとうの世界』にほかなりません。

もちろん、文学が描き出すのは何も美しい世界ばかりではありません。『罪と罰』でドストエフスキーが描いたのは、まさに罪と罰の『ほんとうの世界』です。主人公が犯した罪、そのために彼が味わうことになった罰。作家が読者の前に描いてみせたのは、これこそが人間的な罪と罰の『ほんとう』であるとわたしたちに迫る——一言で言うならば、それはわたしたちが二度と取り戻すことのできない関係性の断絶です——『ほんとうの世界』そのもののなのです。

逆に言えば、そのような『ほんとうの世界』を開示しないものを、わたしたちが文学や芸術の名で呼ぶことはありません。単なる技巧、単なる心地よさ、単なる模倣作品、お決まりの感動……そうしたものを、わたしたちが芸術（としての文学）と呼ぶことはないのです。

もちろん、どのような作品を芸術・文学と呼ぶかは、特権的な誰かによって決められるものではありません。それは人びとの自由な批評を通して、時に長い時間をかけて合意されていくものです。しかしいづれにしても、わたしたちは、ある作品を芸術だと確信する時、そこに『ほんとうの世界』という意味の生成を必ず感じ取って

「芸術とは真理の生成であり、生起である」とハイデガーは言っていますが（『芸術作品の根源』、解釈次第では、これはきわめてすぐれた芸術の本質洞察です。本来であればいくつかの注釈を加えなければならないのですが、ひとまずここでは、このハイデガーの言葉を、「芸術とは、わたしたちにとつての『ほんとう』の『意味世界』を生起させるものである」という意味で捉え直しておくことにしたいと思います）。

文学を含むあらゆる芸術は、わたしたちに「このような『ほんとうの世界』があったのか」と知らしめてくれるものなのです。そのような『意味』を、わたしたちのうちに生起させるものなのです。

美しい音楽に酔いしれる時、わたしたちは、「このような『ほんとうの世界』があったのか」と思わずにはいられません。すぐれた文学においてわたしたちが感じ取るのは、わたしたちの人生においてありうべき、あるい

いるのです。

とりわけ若者にとって、このような『ほんとうの世界』は、時にえも言われぬ力でその心をとらえるものです。その理由は明らかで、多くの若者は、特に何らかの満たされなさや挫折を味わったことのある若者たちは、だからこそ、その胸のうちに、ありうべき、あるいはあれかしと願う何らかの『ほんとうの世界』を夢見ているからです。そしてある時、そんな『ほんとうの世界』が、文学作品の中に広がっていることを知ります。

それは決して、ただの現実逃避であるわけではありません。むしろ文学は、いささか逆説的ではありますが、その虚構の中の圧倒的なリアリティによって、この世界には『ほんとうの世界』が確かにありうることを知らしめてくれるものなのです。

誰もが文学を必要とするわけではないし、誰もがそのような作品に出会わなければならないわけでもありません。でもわたしは、多くの若い人たちに、そのような出会いに恵まれる幸福をぜひ味わってもらいたいなと思っています。文学との出会いは、わたしたちに、わたしたちは「ただ生きる」のではなく、『ほんとう』を求め、それに「憧れつつ生きる」ことの喜びを与えてくれるはずだからです。

時間をかけて読む

たきぐちゆうしょう
滝口悠生

小説家。二〇一六年、「死んでいない者」で芥川賞を受賞。主な著書に、『愛と人生』『ジミ・ヘンドリクス・エクスベリエンス』『死んでいない者』『高架線』など。

去年から大学で週一回だけ演習の授業を持っている。授業といっても、学生と一緒に小説を読んでいるだけだ。私は研究者でも批評家でもないし、小説を読むのに小説家だろうが学生だろうが関係ない。みんなで読んで、あれこれ意見を交わす。そんなんでいいのかわからないが私は楽しいし学生も楽しそうに見える。

読書というのは基本的にひとりではできないから、自分の読み方を他人に伝えたり、他人の読み方を知ったりすると、気づくことがたくさんある。いろいろな読み方について、あれこれ議論する。結論を求めたがる者もいるが、授業内での結論は出さない。それぞれの読み方が共振したりぶつかったりすることこそが大勢でひとつの小説を読むことの意義だと思う。議論は結構だが結論は出したい者が各々出せばいいし、出さなくてもいい。

今年、授業が終わったあと私のところに質問にきた学生が「自分は物語の展開がわかりやすくて、どんなペー

ジをめくって読み進められるような小説しかおもしろいと思えないんです」と言った。

読書というのは好きな小説を好きなように読めばいいものだと思うが、大学の授業や演習で取り上げる小説には、なにも事件が起きないとか、主人公が延々思索をめぐらせるとか、とりとめない会話や風景描写が続くとか、展開らしい展開のない作品もまあ多い。たとえばリーダービリティの高いエンタメ小説を読み慣れていると、授業で読むような小説は平板でとっかかりがなく、どう楽しめばいいのかわからないのだろう。その学生は、そのことに少しコンプレックスを感じていたようだった。

「どうすれば展開のない小説をおもしろく読むことができますか」とその学生は私に訊いた。

「ゆっくり読んでみたらどうですか」と私は伝えた。

ふだん自分が読むより何倍も時間をかけて、一文一文を読んでみる。別に好みの合わない小説を選ぶ必要はな

い。ふだん読んでいるようなわかりやすい展開の小説でもいいから、読み方を変えてみよう。

スローモーションで動画を見ると、ふつうの再生速度では気がつかなかったことに気づく。それと同じで、ゆっくり読むと速く読んだときには気づかなかったことに必ず気がつく。いろんなものが目に入ってくる。どうしてこの語が選ばれたのか、どうしてこの語順なのか、どうしてこの表記なのか、どうしてここに読点があるのか、どうしてこの描写が必要だったのか。だんだん、そういう細部が気になってくる。

読者をはらはらさせたり、感動に導く展開は、たくさんある小説の楽しみ方のひとつに過ぎない。そういうものを期待しても、すべての小説がその期待に添えてくれるわけではない。しかし、どんな小説であれ、ゆっくり読めば読んだだけ発見がある、ということは間違いない。

教室ではみんなと一緒に小説を読むくらいしかできないが、小説家の実作者として学生に教えられることがあるとすれば、いくら時間をかけてもあなたがそれを虚心想懐に読んだならば、小説はあなたを裏切らない、ということだ。時間をかければかけた分だけ、あなたは小説からなにかを感じ、なにかを考えることができる。もし

かしたら小説を読むことで、なにか大切なことに気づいたり、新しい考えにたどり着いたりするかもしれない。小説というのはそういうもので、それは小説を書いている小説家だからよく知っている。もともと、小説は読み終えたからといってなにかご褒美やお土産を用意してはいない。小説の楽しみは、読んでいる間だけのものだ。だからこそ、ゆっくりじっくりと読もう。ともかく小説のなかへなかへと入っていく。文章の隙間、言葉と言葉のあいだに分け入って、潜入するみたいに。ゆっくり読む、というのはそんなイメージだ。

たとえば他人が読み終わった小説のあらすじや感想をいくら聞いても、自分がその小説を読んだことにはならない。「どんな筋立てか」なんてについて書かれていたか「主題はなにか」といったことは、小説の答えでも意味でもなく、空の容器のようなものに過ぎなくて、そういうものは小説のなかに入ると逆に見えない。そういうものは小説を外から包む包装紙のようなものである。

小説の文章を時間をかけて読めば読むだけ、その小説の言葉はあなただけの音や景色をともなった特別なものになる。平板に見えていた文章に、実はたくさんの起伏が、激しい展開が見てとれるようになっていく。

とにかく面白くて、楽しくて

かねはらみずひと
金原瑞人

法政大学教授・翻訳家。児童文学、ヤングアダルト(YA)小説、一般書など幅広い翻訳を手がける。その他、YAのためのガイドブックの監修本なども多数。

もう三十年以上、翻訳をしている。訳書は五百五十冊くらい。絵本も、共訳のものも、単行本が文庫本になったものもふくめてだ。翻訳という作業そのものはしんどくて、それほど好きではない。なのに、何が楽しくて、こんな辛気くさい作業をしているのだろう、肩は凝るし、目は悪くなるし、腰もあぶないし、などと不思議に思ったりする。

ひとついえるのは、本を読むのが好きということ、それからもうひとつ、自分が面白いと思う海外の作品をさがしてきて、それを訳して、「面白かった!」といわれるのが好きだということ。つまり、本が好きで、好きなものを紹介してほめられるのが好き、そこに つきる。

「文学」という言葉は気恥ずかしいので、ここでは「本」といっているのだが、つまるところ、いつもそばにあって、おそらく死ぬまでそばにあるのが本なのだと思う。ぼくにとっては、本も、音楽やアートやスポーツと同じ

ものなのだが、最も親和性の高いのが本なのだろう。

じつは小学生の頃は、根っからのマンガ少年で、ほとんど本を読まなかった。というか、本の読み方がわからなかったのだ。曲がりくねった針金か折れ釘のような文字を音に変換し、その意味しているものを想像し、さらにそこから人物やストーリーを再現していくという作業が異様に難しかった。小学校にはそれがすんなりできる生徒とできない生徒がいて、自分はまるつきりできない生徒だった。幼い頃から本が楽に読めた人に、この気持ちはわからない。鉄棒の得意な生徒に、逆上がりのできない生徒の気持ちはわからないのと同じだ。

意外に思う人が多いかもしれないが、読み方がわからないというのはよくあることなのだ。たとえば、ぼくの母は本好きで、七十を過ぎても時代小説なら一日で一冊くらいは平気で読んでいたが、マンガが読めなかった。読み方がわからないというのだ。もうひとつ、母は3D

の本(ごちゃごちゃした模様が見開きのページに印刷されていて、うまいこと目の焦点を合わせると、画像が浮き出て見える)の見方もわからなかった。読み方、見方、楽しみ方がわからないというのはそういうことだ。

ところがぼくの場合、中学生のある時期、ふと本の読み方がわかった。これか! と思ったときの驚きと喜びはいまでもよく覚えている。それからというものの、いきなり逆上がりができた男の子同様、まわりの人間があきれるほど逆上がりばかりし続けて、現在に至る。

自分の読書体験をまとめるとこんな感じだ。

中学生の頃は、海外のSF、ミステリーにはまり、本棚には古本屋で買ってきた、ブラッドベリ、ハインライン、アシモフ、クラーク、ウィリアム・アイリッシュ、デイクスン・カー、エラリー・クイーンなどといっしょに、筑摩書房の『世界文学大系』と河出書房のグリーン版が並んでいた。『現代日本文学大系』は第一巻を読んで、さっぱりわからなかったのだ、それきり開かなかった。坪内逍遙や二葉亭四迷の作品が入っていたのだからしょうがないのだが、その頃は、そんなことはわからなかった。

高校ではちょうど一年生のときに三島由紀夫の事件があった、「国語の授業なんか受けてるときじゃないだろう。三島の本を読もう」とかいていたらしい(本人は

覚えていないのだが、同級生からそんな話を聞いた)。当時、三島、三島といいながらも、やはり澁澤龍彦や、フランスのマンディアルグといった幻想小説がむやみと面白く、じつに不健康な文学に夢中になっていた。そして大学は英文科に入って、今度は、思いのほか地平の開けた、見通しのいい本を読むようになり、さらに大学院に入ると児童書やヤングアダルトの本を好んで読むようになって……思いがけず、翻訳をするようになる。

という経歴なので、文学の魅力とかいわれてもよくわからない。とにかく面白くて、楽しくて、そばにないときさびしいというだけなのだ。

ただ、文学の魅力がわからないという人の気持ちはよくわかる。かつての自分がそうだったから。だから、そういう人は自分にしつくりくる音楽なりアートなりスポーツなりにそういうものを求めればいい。ただ、ぼくのように、本当は本が一番面白いはずの人が一生、その楽しさがわからないまま死んでいくのはもったいないと思うので、あちこちで講演をしたり、若者むけのブックガイドを作ったりしています。

高校の国語と文学の可能性

はちかい
みみ
蜂飼 耳

詩人・作家。詩集に『現代詩文庫・蜂飼耳詩集』『顔をあらう水』（鮎川信夫賞）、文集に『空席日誌』『おいしそうな草』、書評集に『朝毎読』などがある。

高校の国語が見直され、文学作品の枠が狭まるらしいというニュースには少なからず衝撃を受けた。とはいえ、その内容を見ると、時代の移り変わりによって変化することは当然だという気持ちにもなった。

確かに「論理国語」も大事だ。説明文の読解や論理的な思考の価値が、文学より低いわけではない。むしろ、社会人として生きる上ではそうした方向性こそが必要だろう。同時に「言語文化」「文学国語」といった新科目では、文学に触れる機会が確保される。しかも、文学作品を読むだけでなく、批評したり、脚本の形式に書き換えるなど、従来に比べて多角的な扱われ方となる。

科目としての国語における文学はいつたい、どこへ行くか？ かわらない。ともかく、いまが過渡期であること、大きな転換点を迎えていること、そしておそらく、多様な接し方や表し方の中にある文学といった視点が今後さらに拓かれるだろうという予感だけ

が、いまはある。

国語を考えるときには、小学校、中学校の国語との繋がりの中でイメージする必要がある。高校生ともなれば、個人差があるとしても、小学校、中学校での国語を通して培った経験が豊かさとして可能性を秘めた種子としてたくわえられているはずだ。それを、どうするか。そこ、どう付き合うか。高校生という時期はそういう時期だと思う。高校の国語の理想は、将来的に文学を選ぶことのない生徒にも、文学を選ぶ生徒にも、いずれにとつても、なにかしら胸に響く体験を生じさせることだろう。

どうしたら、そのような運びになるだろうか？「教える方」という言葉がある。だが、もっとも大事なことはたぶん、教える側がどのように作品（教材）を味わっているか、その「味わい方」なのではないか。テストや入試を考えると、設問の解き方のテクニックを伝えたり身につけたりすることは大事だけれど、そうだとすると、そ

れでも文学は文学なのだ。味わうこと、心を動かされること、なんとなく面白いと感じることなど、情動の面がどうしても大切になる。面白がるのができなくてもいいと思う。その場合は、面白く思わない、という感想を通過すること自体に意味があるのだ。

教科書に繰り返し掲載されてきた作品に、たとえば夏目漱石の「こころ」がある。教科書には一部分しか載っていない。だが、そのためにかえて全体としてはどんな作品なのかと気になり、自分で読む生徒は昔もいまも多いだろう。Kの死がよくわからない。さまざまな見方ができる。それぞれの見方に、それぞれの根拠がある。不可解な点が残る。できれば作者に質問したいくらい。だが作者だから答えられるとも限らない。そんなふうにああでもない、こうでもない、と一人で考えたり、他の人たちと議論したりすることが面白い。

もやもやしたところを残す作品は、じつのところ、もやもや自体に意味がある。それは払拭してはならない点だ。というのは、大人になって生きていく社会は、もやもやだらけなのだから。なんなのだろう？ と思いがたら読んでもみること、意味らしい意味を引き出せないことにすら、意味がある。教科書で「こころ」を読んだことを忘れるとしても、同じクラスで同世代の人たちとそれ

に接する時間を持つことは、それだけで意味がある。

この文章を書きながら、いま、高校のときの国語の先生の顔を思い出している。三十代の男性だった。大学と大学院で仏教説話を専攻した先生だった。先生は国語を教えることを、どれくらい楽しんでいただろうか？ 教材によつては、先生にとつてもあまり面白くないときがあったかもしれない。中原中也の詩「一つのメルヘン」なんて、いったいどこを漂っている言葉なのか、つかみどころがない感じで、教室では先生も生徒も困っていたのではなかったかと思ひ返す。けれど、そういう場で詩を音読してみることに、味わうことは、それだけでまぎれもなく一つの体験だった。一つの体験とは、つまり、他とは違う体験ということにはかならない。

人の心は複雑なものだ。AIの研究と活用がさらに進んでも、人の心の複雑さに完全に追いつくことはできないだろう。その複雑さが具体的に花開く場が文学の場であり、人はそれを味わい、楽しむことができる。それは、もやもやも、矛盾も、投げ入れることのできる場だ。短絡的な思考に陥らない道を伝える場にもできるだろう。そんな体験の可能性を大いに秘めた場を、高校の科目から追い出すことはしないほうがよいと思う。知らず知らずのうちに、それは生きる手段となるからだ。

文学と高校生との幸福な出会いのために

こうだくにひろ
幸田国広

早稲田大学教授

■高校国語から文学が消える？

昨年来、作家の阿刀田高さんをはじめとした文学者や文学研究者から、高校国語教育の改革によって文学が軽視されるのではないか、という疑念が表明され、同種の危惧が広がっています（13頁参照）。次期学習指導要領では、高校国語科が再編され、共通必修科目が「現代の国語」と「言語文化」に分かれるとともに、「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」といった選択科目が新設されます。また、この改訂に先んじて、二〇二〇年度から大学入学センター試験に替わり、大学入学共通テストが始まります。

戦後最大とも称される教育改革ですから、多くの声が上がるのも自然なことでしょう。問題は、事態が「文学VS.実用」のように、二項対立で捉えられてしまっている点です。また、今回の改訂が文学に対する逆風を引き起こしているという見方そのものです。こうした捉え方は、

ようにも見えます。

また、教育課程の改訂に関しても、やはり誤解があります。多くの学校が「論理国語」と「古典探究」を選び、「文学国語」は選ばれないのではないか、といった見方があるようですが、改訂がそうした方向を促しているということはありません。問題は、なぜ自明のように「論理国語」と「古典探究」に絞られるのか、という点です。ここには、おそらく高校国語を取り巻く構造的な問題が潜んでいます。

■すでに広がっている文学軽視の風潮

現在、すでに多くの高校では文学教材の扱いが少なくなっており、高校国語は評論文と古文の読解によってほとんどの時間が占められています。各校の年間指導計画を見れば、そのことは一目瞭然です。せいぜい年間で三、四教材、定番教材を中心に扱う程度、それも二年生までで、多くの進学校では三年生になると文学教材はほぼ姿を消して、もっぱら評論の問題演習に充てられています。すでに指導要領とは関係なく、文学は各校の判断で居場所が狭くなっているのです。

この背景にあるのが、大学入試国語の実態です。入試問題に小説をはじめとする文学作品を出題する大学は、

ともすると教室での文学をめぐる問題を単純化してしまい、文学を大切にするという点では、かえって本質を見失わせてしまう恐れがあります。

まずは事態を正確に捉えましょう。大学入学共通テストでも文学は消えないでしょう。方針等にも明記されていますし、二年度にわたる試行調査でも文学作品を素材とした大問はちゃんと出題されています。新設の記述式大問で、契約書や生徒会規約といった実用的な文章が目を引きたいのでしょうか、あたかも、文学が実用に取って代わられるというような受け止め方をしている論者もいるようですが、その捉え方は正しくありません。考えてみれば、大学入試センター試験は、毎年批判を受けながらも一貫して文学の出題をやめませんでした。登場人物の心情ばかりを問うているが、そんなことで文学が読めるのか、といった批判に正面から向き合い、あらためて文学を出題することの新機軸を打ち出そうとしている

現在では極々限られています。残念ながら高校国語の実質的な準拠枠は、指導要領よりも入試国語にあるといっているでしょう。加えて「論理国語」と「古典探究」は、単に評論を読んだり、古文を読んだりするだけの科目ではないのに、科目名から受ける印象と慣習的な授業イメージからだけで理解されてしまっているように感じます。ここでは詳しくふれられませんが、「論理国語」は論理的に書く能力や批判的に読む能力を鍛える科目ですし、「古典探究」はまさに古典を探究し、「古典に参加する」科目です。そして、「文学国語」は、文学を探究したり、文学を自ら創ったりする科目ですから論理を排除するようなものではないのです。本来の科目の趣旨が正しく理解されれば、いずれもこれまでの教室の風景を変えうる科目になるのだとわかるでしょう。

そもそも選択科目については、あくまでもカリキュラムマネジメントの観点から、学校作りのグラッドデザインとともに選ぶべきです。元凶とされている四単位問題も、都道府県レベルで減単位規定が作られつつあるようですから、科目選択もしやすくなるでしょう。

■教師と生徒の意識ギャップ

ですが、問題の核心はそこではありません。「論理国語」

新学習指導要領「高校国語」をめぐる言論界の動き

(2019年10月現在まで)

書籍

- ・『国語教育の危機』紅野謙介（2018年9月、筑摩書房）
- ・『どうする？ どうなる？ これからの「国語」教育』紅野謙介 編（2019年7月、幻戯書房）

雑誌

- ・『文藝春秋』2018年11月号「高校国語から『文学』が消える」伊藤氏貴
- ・『文藝春秋』2019年1月号「高校国語から文学の灯が消える」阿刀田高
- ・『すばる』2019年7月号「変わる高校国語、なくなる文学」伊藤氏貴、内田樹、小川洋子、茂木健一郎
- ・『季刊文科』78号、2019年7月15日「国語教育から文学が消える——新学習指導要領をめぐる対談《紅野謙介×伊藤氏貴》」石原千秋、富岡幸一郎、中沢けい、他
- ・『文藝春秋』2019年9月号「『文学なき国語教育』が危うい！」紅野謙介、斎藤孝、前川喜平、千葉雅也、伊藤氏貴、北村薫、依万智、他
- ・『世界』2019年9月号「対談・国語教育崩壊は回避できるか」小森陽一・紅野謙介

その他

- ・日本文藝家協会「高校・大学接続『国語』改革についての声明」理事長 出久根達郎（2019年1月24日）
- ・日本学術会議公開シンポジウム「国語教育の将来——新学習指導要領を問う」小倉孝誠、安藤宏、三宅晶子、渡部泰明、大森秀治、大滝一登（2019年8月1日）
- ・日本近代文学会、日本歌謡学会など、文学関連16学会「高等学校国語・新学習指導要領」に関する見解を表明（2019年8月10日）

「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査」の結果

「教科・科目別分析と改善点（国語）」より
文学的な文章を読むこと（生徒・教師の意識の違い）

生徒	好きだった	29.6%
	嫌いだった	40.7%
教師	生徒は興味を持ちやすい	64.3%
	生徒は興味を持ちにくい	13.0%

能性が秘められています。教材も、評論や古典も扱えますし、映像等を活用した文学への多角的なアプローチも期待されています。

高校生と文学との幸福な出会いを実現するために、今

一度、新科目の趣旨を正確に理解するとともに、現状の文学の扱い方を考え直し、令和時代の文学教育を構想するのはいかがでしょうか。

も「文学国語」も履修可能になるならよいとか、「文学国語」の中で評論も扱えさむことだ、とはなりません。今、教室で文学がどのように扱われているかという点こそ、本当に文学を大切にしていくためには考え直さなければならぬ焦点だからです。

確かに国語の先生には文学を教えることが好きな方が多いかもしれません。しかし、どうやら生徒の意識は違ふようです。高校生は先生方が思うほど文学を学ぶことを好んでいません（▼13頁「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査」の結果参照）。ここにギャップがあります。そもそも教室で文学はどう扱われているのでしょうか。こうした教師と生徒の意識の差の中にも、国語教育と文学の関係を考える上では、深い問題が潜んでいます。

さらには、こうした入試国語や生徒の意識を方向付ける、日本社会全体の文学に対する価値意識、世間の雰囲気といったものがあります。残念ながら高校生からの進路希望先として人文系学部の人気はなかなか上がりません。生徒がもっと文学に関心を持ち積極的に学びたいような、古典を含む文学との幸福な出会いを国語の時間にどう実現していくのか、そのことを徹底的に考える必要があります。

■新しい文学教育の構想に向けて

もちろん、国語科は文学だけを教える教科ではありません。言語能力は他教科での学習を支え、実社会での諸活動の質を規定します。ですから、話す能力や書く能力、読む能力をバランスよく、計画的に育成することが求められています。そのためには文学教材だろうが、実用的な文章だろうが、図表や映像等を含め、使えるものは何でも使う必要があるということです。国語科の担う広い責任を確実に果たすために、今回の改訂で大きく枠組みが変更されたのです。ただし、各科目では、科目の性格や主な資質・能力との適合性、指導する上でねらいが曖昧にならないように、教材の文種がある程度限定されています。「言語文化」や「文学国語」といった枠組みも、国語科で育成すべき資質・能力の中に、文学の持つポテンシャルを明確に位置付けようとしているからこそ積極的な提案だと受け止めてみるのはいかがでしょう。「人文知」の擁護も、単に文学教材をいくつか読めば済むという話ではないはずです。

これからの時代は、探究と創造の学習が教室の文学を救うかもしれません。慣習化された文学教材の読み取りから、文学を探究し、実践する授業へと転換していくことが目指されています。特に「文学国語」には様々な可

記憶を語り歴史を紡ぐ

たかはしたつお
高橋龍夫

専修大学教授

「言語文化」の一基層として

個人的体験から共同体的物語へ

「記憶というのは小説に似ている、あるいは小説というのには記憶に似ている」——これは村上春樹の初期短編「午後の最後の芝生」(『宝島』一九八〇)の一節である。「僕は小説を書きはじめてからそれを切実に実感するようになった」と述懐する語り手は、学生時代に体験した十四、五年前の記憶を語り出す。遠距離恋愛によって失恋し孤独を抱えた「僕」は、芝刈りのアルバイト先の高級住宅街で、戦後日本の時代状況に翻弄され家族を喪失した中年の女性のやり場のない孤独に「瞬間寄り添うことで、一女性の来歴に向きあうことになる。個人的な体験の記憶は、むしろ個人的だからこそ、それを語り伝える営為が共同体的な物語へと開かれ、やがてその時代を生きた人々の証として一つの歴史を紡ぐこととなる。こうした認識は最新長編『騎士団長殺し』(新潮社 二〇一七・三)にも継承されている。妻から離婚を突きつけられた「私」

は、東北を放浪後、小田原の山中にある日本画家のアトリエを借りて隠棲するが、その間に画家の生涯と対峙して、第二次世界大戦におけるオーストリアや中国での苦境と惨状とをつぶさに実感する。画家の記憶を「私」が語り継ぐことで、作品そのものが二〇世紀の負の記憶を継承し二一世紀の読者に向けて歴史を紡ぐ役割を果たす仕掛けとなっている。そこには、ホロコーストの歴史的記憶の覚醒としてサムエル・ヴィレンベルク『トレブリンカ叛乱』(二〇一六)の一節を直接引用する場面も挿入される。「記憶というのは小説に似ている」との春樹の認識は、『ねじまき鳥クロニクル』『海辺のカフカ』『IQ84』などを経て、最新作に結実したといえよう。

ここで想起されるのは、「こころ」である。先生は遺書の中で「私」に「記憶して下さい。私はこんな風にして生きて来たのです」と綴る。明治の終焉を契機に先生の個人的な記憶を語り伝えられた「私」は先生の記憶を

受け継ぎながら次世代を生きていく。「舞姫」も豊太郎のドイツ体験を帰国途中の「セイゴンの港」で回想することで、国家を担う一青年の生々しい青春の痛恨の記憶を語り伝える。いずれも同時代と後世に、近代日本に生きた一青年の物語を一つの歴史として語り継いでいよう。

文学の意義の一つには、こうした個々人の体験の記憶を時代を超えて語り伝え、共同体的な物語へと開示すること、(『正史』とは別系統の『稗史』)としての市井の人々の歴史を紡ぐことにあるのではないだろうか。その時、フィクションと歴史との接点は思ったほど希薄ではない。実在の人物でなくとも、特定の時代と地域の具体的な状況下に生きる一個人の抱く感情や思念、邂逅や体験を言語によって語り伝えることは、私たちの脳裏にリアルな現実として受け止められる。ハルオ・シラネが「文学は社会の構造や人間の価値観の様々な可能性を探るメカニズムなのです」(『エコクリティシズムと日本文学』『国文学』二〇一七・六)と説くように、文学は意外なほど歴史と近接した社会的・文化的機能を担っており、まさに「言語文化」の一基層をなしているのだ。

文学教材再読

こうした観点から文学教材を再読してみれば、人物の心情や心象風景を読み取る心理主義的な解釈からいった

ん距離を置いたアプローチが可能となる。「羅生門」は、典拠の『今昔物語』自体、芥川が「此世界に出没する人物は上は一天万乗の君から下は土民だの盗人だの乞食だのに及んでゐる」と評したように様々な階級に焦点が当てられ、芥川はその中でも盗人が登場する「巻第二九第一八」をもとに、主人公を最下層に属する下人に設定する。近代国家がカノンとした国文学史からは疎外された説話をもとに「常民」(柳田国男)の生の在り方を、荒廃した京都で(『生』)を求めて闇を駆け抜ける野性的な若者の姿を通して読者に問いかける。徳富蘆花が「謀叛論」を論じ、有島武郎が「叛逆者」を発表し、大杉栄が「生の拡充」を主張した、大逆事件以後の(『冬の時代』)と第一次世界大戦の最中に生きる市民の姿が下人と二重写しとなって、一人の若者の生の歴史が浮き彫りになる。

「山月記」は、未明に山中で、旧友・袁修に対し李徴の声が叢の中から自らの体験を切々と語る。既に人間界に戻れない李徴は、青年期の悔恨の記憶——博学才穎でも歴史の表舞台に立つような唐代の詩人にはなり得なかった人間の苦悩の軌跡——を旧友に語り伝えることで、読者にもその記憶が共有される。しかも時代設定が「天宝の末年」であることは意味深長である。「羅生門」の荒廃した京都同様、玄宗皇帝の統治の墮落や安史の乱

により律令体制の崩壊の危機にあつて、李徴のような清廉潔白な秀才の能力が正当に評価されたかどうか危ういだけでなく、唐の発祥が隴西の李氏だとする説があるように、李徴がその血統を引いていたとすれば、士族の反乱によってさらに不利な立場に置かれていたであろう。中島敦は日中戦争最中に青年期を迎え、戦乱の最中に無念にも早世する。「天保の末年」は、中島敦にとっても他人事ではなかった。「山月記」は、時代に翻弄された青年の記憶が作者の声と重なりながら克明に語られることで、同時に二つの歴史を紡いでいるのである。

同時代の太宰治の「富嶽百景」は、「私」の体験を通して富士山の評価が二転三転する話だが、富士山麓で出会った人々との交流時の富士山は「私」に親しみを感じさせる一方で、都会で世俗的に触れる富士山には否定的である。この背景には、「私」が生きた軍国主義の時代の富士山表象が介在している。その最たる出来事は、一九三九年に開催されたニューヨーク万国博覧会に出席された三六〇度の眺望を配した当時世界最大の巨大パノラマの写真壁画『秀麗富士』と、一九四〇年に開催された「紀元二六〇〇年記念 日本万国博覧会」で刷られた真つ赤な朝焼けに白くそびえる富士をデザインした絵葉書であった。国民の戦意を高める装置として、時に雑誌

のグラビアに、絵画や写真の題材に、文章の象徴的表現にくまなくプロパガンダとして用いられたのである。そうした富士山表象を覆すのが、富士山麓で素朴に暮らす市井の人々との交流であった。「私」は彼らの声を掬い上げその記憶を語り伝えることで、反転的に時局の富士山表象を暗に批判する役割も担う。個々人の体験が戦時中のもう一つの歴史として確かに刻まれている。

村上春樹の「鏡」は、一九六〇年代の一連の学生運動の時代の波に呑み込まれアウトサイダーとして生きた二〇代の「僕」が、自己を憎むもう一人の僕と出会う恐ろしい体験を語る短編である。自宅に集う知人たちの前でホスト役として語るスタイルがその深刻さをユーモアに韜晦しているが、体制打破という時代の流れに翻弄され大学進学を拒絶して中学校の夜警をした主人公の深層心理には、自己の選択した生き方への疑義を通して時代の波を相対化する視点が込められている。一個人の体験が、一九六〇年代に青春を送った人々の共同体的記憶として歴史化される一断面を見ることができよう。

川上弘美の「神様」は、テキスト自体が自らを歴史化していく作品といえよう。「私」は散歩日和に熊に誘われてのんびりと自然の中でピクニックをして「悪くない一日だった」との思いを抱く。だが、「神様2011」

では、冒頭から結末まで同じ文体、同じ出来事の再現を装いつつ、ディテールには原発事故による放射能の影響が克明に刻まれる。既に「神様」で体験した「私」のほのぼのとした記憶は二度と再現されないまま、セシウム

家は、環境や時代に応じて変化する習俗に関心を持ち、同時代の民主的な歴史を書く」「歴史家以上に優れた歴史家である」と評する。だとすれば、文学を学ぶ意義は、古今東西に生きる人々と出会い各人の歴史に対峙することによって世界を知ることであり、同時にそうした世界を形づくる言語文化の基層に触れることでもある。登場人物を特権的にフォーカスする心理主義的アプローチは人間理解を促す必要不可欠な読解のプロセスであるが、その偏重傾向の課題と読みの交流の意義については既に拙稿『文学・語学』二〇一六で論じた。むしろ、文学作品へのアングルを少し変えてみることで、人物の生きた時代や環境を理解し文学の社会的・文化的役割について考える機会を持つことも時に有効だろう。私たちが常日頃から歴史の延長上に生きていることを実感することは、自ら現代を相対化し評価しつつ生きている知恵を獲得する主

■「言語文化」の継承と発展

言語文化とは、ある時代や地域に生きる人々の言語生活を次世代に継承する生活文化全般の営みである。そこには決して歴史の表舞台には顕われない個々人の言語表現も少なからず寄与していよう。言語文化の基層には、市井の人々の生きた証としての記憶が限りなく堆積している。文学は、その地層の断面に蓄積する人々の記憶を様々な形で掬い取り、世代を超えた文化表象としての歴史へと一つ一つ紡いでいく役割を担っているのである。

昨年六月に来日講演したイヴァン・ジャブロンカは『歴史は現代文学である』（真野倫平訳 名古屋大学出版会 二〇一八・五）において「フィクションが、歴史家以上に真理を含んでいるのは、それらが登場人物や感情や雰囲気によって過去をよみがえらせるからである」とし、「小説

「記憶というのは小説に似ている」との文学的実践は、個人の記憶が共同体的な物語として歴史化されるまさにその瞬間に立ち会う私たちが自身の言語的営為であると同時に、言語文化の一基層に触れながら自らも言語文化を継承し発展させていく歴史的営為でもあるのである。

読みの視点をキーワードで表す

ふるかわかな
古川佳奈

専修大学松戸中学校・高等学校教諭

「舞姫」の授業

■はじめに

夏休み、担任をしている高校三年生の女子生徒が、職員室にやってきた。志望理由書を読んでほしいと言う。渡された用紙には、彼女がさまざまな文学作品に触れて心動かされてきた経緯や、大学の文学部に進学して研鑽を積み、将来は国語教師として文学の魅力を伝えていきたいという思いが、素直な言葉で綴られていた。

教え子が同じ道を志すというのは、嬉しくもあり、気恥ずかしくもある。しかしこの夏、筆者が最初に抱いた感想は、そのどちらとも異なるものであった。

大学入試改革、そして二〇二二年度から実施される高等学校の学習指導要領改訂は、「国語」の授業に大きな変革をもたらすと言われている。「文学国語」という科目が新設されるものの、進学校では入試に鑑みて「論理国語」や「古典探究」が優先され、選択できる学校が少ないのではないかとという危惧も耳にする。

はたして件の女子生徒は、経験から想定しているような文学の授業を行うことができるのだろうか。新しい学習指導要領のもと、どのようなことを感じながら教壇に立つのだろうか。これから行われる制度改革は、この変革期をまたぐ若い世代にも課題を突きつけている。

■高校三年生が読む「舞姫」

さて、本稿で紹介するのは、森鷗外「舞姫」の授業である。勤務校では例年高校三年の二学期に扱っており、文系・理系、スポーツクラスを含む全クラスで授業を実施している。今回の授業は構想と考察を筆者が行い、実践にあたっては、同じ学年を受け持つ神谷麻以教諭の協力を得た。

「舞姫」は擬古文であり、本来ならその響きの美しさに注目させたい作品である。しかし実際は、やはり内容の把握しづらさが先立つようで、音読をさせたところ、

「同じ行を三回も読んでしまった！」など、苦戦する様子が見られた。読み手は作品の描写を通して、主人公・

太田豊太郎の心境の変化を追う。その葛藤をより深く理解するためには、当時の社会状況についてある程度の知識を補うことも不可欠である。こうした作品の特徴から、

「舞姫」が高校生にとって難解な作品であることは、これまでにも何度となく指摘されてきた。生徒たちを授業に引き込むためには、「いま、教室で読む意味」を問うことが大切だと考えている。

『精選現代文B 新訂版』では、「舞姫」が最後の小説単元に位置づけられている。作品で描かれている内容は、卒業後の進路選択に揺れる生徒たちに、新たな視点を与えるだろう。実践では、第1時に「高校三年間の集大成として読もう」という意識づけを行った。授業中の反応、ワークシートの記述を踏まえると、気概をもって授業に臨んだ生徒が多かったようだ。一読ではわからなかった箇所を紐解きたいという思いは、活発なやりとりにつながっていた。

■取り入れた言語活動

本単元では、自己の読みの視点を捉えさせるために、「舞姫」を三つのキーワードで表す」という言語活動を

取り入れた。このアイデアは、偶然日比谷の書店で目にしたブックフェア「三題断文庫」からヒントを得たものである。この企画は三つの単語を手がかりに面白そうな本と出合ってもらおうという試みで、この取り組みを授業に応用できないかと考えた。

活動のねらいは①自己の挙げたキーワードの妥当性を検証することで作品を主体的に読ませることと、②なぜそのキーワードを挙げるのか、本文に根拠を求めることにより小説の読みを深化させることにある。キーワードは端的な表現のため、他者との比較も容易だと判断した。

■授業の実際(全12時間)

第1時

二学期の授業開きとなった本時は、本単元で行う言語活動への導入として、「これまでに読んだ文学作品を一つ挙げ、三つのキーワードで表す」という授業を行った。また、本単元で扱う「舞姫」が、高校で読む最後の小説である、という意識づけを行った。

第2時

本文を読み、「作品を表す三つのキーワード」と、そのキーワードを挙げた理由をワークシートに書かせた。

第2時に生徒が挙げたキーワードとその理由（抜粋）

「真面目な主人公」「異国」「取り返しのつかない過ち」

豊太郎が真面目な人物だからこそ、熱で倒れてしまうまで思い悩んでしまうのだと思った。明治時代のドイツという舞台設定がこの物語に大きな影響を与えている。豊太郎は嘘を重ねてしまった末、後戻りできなくなった。

「決心のつかない心」「友」「愛」

この三つのうち一つでも欠けていたら、結末は変化しなかったから。決心のつかない心がなければ友がいても愛が勝ってドイツに留まったかもしれないし、日本に帰ると決心できればエリスに真実を話せた、みたいな感じで三つとも必要。話は変わるが、豊太郎、お前は相沢を憎む前に己の心をどうにかしなさいよ。…でも自分も同じ立場なら、決心がつかなかったかもしれない。豊太郎、人間らしい。

第3時～第11時

本文を意味段落に分け、登場人物の心境とその変化を中心に内容読解を行った。

第12時

前時までの内容読解を踏まえ、もう一度作品を表すキーワードを挙げさせた。第2時で挙げたキーワードや他者との比較を行い、改めて自己の読みの視点を確認さ

生徒が挙げたキーワードは、①作品の構造に着目したもの、②時・場・人物・事件設定など、形象に着目したもの、③主題に着目したものに大別することができる。中には豊太郎の人間性を批判するものもあったが、その視点だけに偏ることはなかった。

ハッシュタグ（#／検索キーワード）を付けた記事を日常的に投稿しているSNS世代の生徒たちにとって、今回の言語活動は比較的理解の取り組みやすかったようだ。タグ付け同様、今回の言語活動においてもどのキーワードが正しいのか、唯一の答えはない。また、客観的な読みを目指していても、キーワードを挙げる際には、読み手が自己の関心事を色濃く投影してしまう場面がしばしばあった。

筆者は、作品の読解や言語活動を通じて、生徒がその偏りに気がつくことにも、意味があると感じている。高校時代に一つ作品を読んだ生徒たちが、将来もう一度同じ作品を読み返したとき、異なる視点で読む可能性は十分にあるだろう。文学作品を読むということは、他者のものの見方に触れることであり、自己のものの見方を知ることでもある。

せることで、本単元のまとめとした。

第12時に生徒が挙げたキーワードとその理由（抜粋）

「迫られる決断」「弱き心」「好意」

主人公の人生において、何度もターニングポイントとなるだろう決断があり、それによって結末が変わりそうだから。エリスへの異性としての好意と、相沢への友としての好意、それぞれが彼の人生を難しくさせたような気がする。

「まことの我」「しがらみ」「人間らしさ」

自分が縛られていることへの反発や自分の意志では決められないことへの迷いなど、人間にとって普遍的な悩みが描かれていて、自分の仕事と情愛で揺れる豊太郎は、とても人間味があると思ったから。

「自由」「友情」「愛」

「自由、友情、愛」これらは一見すると全て良いものと思われる。しかし「舞姫」に登場した「自由、友情、愛」は、純度一〇〇%の良いものとは言えないだろう。豊太郎は自由を得たと自負していたが、結局自分とはわれの鳥だと悟っているし、友情（豊太郎と謙吉）という観点からも、豊太郎は謙吉に一つの憎しみがある。エリスと豊太郎の愛も壊れてしまった。

■おわりに

現在国語教師を目指している高校生たちは、自分が受けた学習経験とは異なる学習指導要領のもと、教師生活のスタートを切ることになる。新課程では科目構成が大きく変化することもあり、手にする教科書の中に、教えたいと願った教材が採録されているとは限らない。全員が「山月記」や「こころ」そして「舞姫」を読むのか、想定しづらい状況である。

しかし、どのような教材で授業を行うにせよ、文学の魅力を発見できる資質・能力を持った生徒を育てられるはずだ。従来の文学教育の成果を踏まえつつ、学力観の転換が意図するところを正確に理解し、さまざまな制約のなかでねらいを達成していくことが、教師の役割だと考えている。

将来の変化を予測することが困難な時代にあって文学教育のあり方は、これからも切実に議論されていくだろう。当たり前のように行われてきたことが改めて見直される状況は、多くの対話を生む。四年後、教育実習生として母校に戻ってくる生徒たちが、どのような視点を持って新しい文学の授業を構想するのか、楽しみである。

主体的に読みを進める仕組みとは

すぎもとのりこ
杉本紀子

東京学芸大学附属国際中等教育学校主幹教諭

——「文学探究」での学びを通して

■学校設定科目「国際B」講座「文学探究」

本校では六年次（高校三年次）の学校設定科目として「国際A（二単位）」と「国際B（二単位）」（両者とも自由選択科目）を開設している。

「文学探究」は科目「国際B」内の講座の一つであり授業担当は国語科が担っている。履修人数は毎年一〇人から一五人程度と少人数であり、そのことを活用してゼミ形式で授業が運営されている。講座独自の目標は以下のように掲げている。

- ・さまざまなスタイル（文体）およびジャンルからの多様なテキストを知る。
- ・個々のテキストを分析し、関連性のある他のテキストと結びつけることができる。
- ・表現力（口述および記述によるコミュニケーションを含む）および創造力を養う。
- ・テキストの学習を通じて、文化的背景が異なる人々

ものの見方や、それらの見方がどのように意味を構成しているかを認識する。

・言語と文学に対して、生涯にわたって関心や興味を持つ。

開設当初から掲げているこれらの目標は実は新学習指導要領における「文学国語」の目標と親和性が高い。科目の単位数や教科書の取り扱い方に違いはあるが、生徒が「文学」の学習を通してどのような力を身につけていくのかについては本校「文学探究」での取り組みが一つのイメージモデルとなるのではないかと考えている。

■テキストと授業のねらい

二〇一九年度の「文学探究」ではこれまで次のように授業を進めてきた。

◇一学期

〈テキスト〉村上春樹「青が消える」・志賀直哉「小僧の神様」芥川龍之介「藪の中」・映画「羅生門」（黒澤明）

〈学期を貫く問い〉「小説を小説たらしめるものは何か」
一学期は既存の知識や読解の技術を見直しながら、短編を用いて小説の構成要素、例えば「語り手」「構成」「伏線」「比喩」などがどのように小説の主題や面白さを表現するために働いているのか、どのような役割や意味をもっているのかを段階的に学習した。

◇二学期

〈テキスト〉W・シェイクスピア「マクベス」・芥川龍之介「地獄変」

〈学期を貫く問い〉「作品を探究するための問いとは——自分で問いを立てて読もう」

二学期は一学期の学習経験を踏まえ、自分で作品を深く探究するための「問い」を立てられるようになることを目指している。「マクベス」は本校の国際バカロレア・ディプロマプログラムの文学のクラスでも扱う作品だが、翻訳の問題や戯曲というジャンルであることなど、これまでと違った視点から作品にアプローチできるという点で、問いの幅が広がることをねらいとして選んでいる。「地獄変」は四年次に習った「宇治拾遺物語」の翻

案という点や、「芸術至上主義」という思想的な側面に焦点を当てることができる点で同様に問いの幅が広がる作品である。

■授業内容と生徒の学び

◇一学期の授業内容

「青が消える」では、主として比喩や象徴に記号的意味を見いだすことがどの程度作品の読みを深めるのか、記号的に読まないことでどのように作品の主題への迫り方が違ってくるかを学習した。

「小僧の神様」では「語り手」の存在意義、時間や空間の設定が作品にもたらす意味について学習した。作品末尾に「作者」が登場する仕掛けについては、「作者」「語り手」「読者」の関係を強く意識するよい材料となった。「藪の中」は「語り手」に視点をおいて基本的な分析を行った後、映画「羅生門」との比較を行い、映画化される際にすでにそこには「作品解釈」があることや媒体が違ふとどのような仕掛けの違いが生じるかということを学習した。

学期末の総括的課題としては「藪の中」と映画「羅生門」を比較させて、次のような課題を課した。

〈一学期末課題〉

- ① 「藪の中」の語りについて、その特徴的な点と効果を八〇〇字程度で解説しなさい。
- ② 映画「羅生門」と小説「藪の中」を比較し、比較の焦点を自分で設定して、一六〇〇字～二〇〇〇字程度で論じなさい。
- ③ 生徒は自分で論点を設けねばならないので、一見難しく感じられるが、学期途中では形成的評価として、他の作品についても作品の構成要素を一つ選んでその役割について解説するという課題に取り組んでおり、生徒にとって論点を自分で設定することは多少の難しさはあっても不可能ではない。結果としては、多様な論点の設定が見られたが、作品の構成要素の役割を的確に指摘し、かつ映画との比較において「小説を小説たらしめているものが何なのか」という点について自分なりに言及しているものが見られた。

◇二学期の授業内容

二学期はさらに主体的で自立した読み手となることを目指し、次のように授業を進めている（二〇一九年一〇月現在）。

「マクベス」では、登場人物の整理など基本的な作業

を行った上で先行研究をいくつか示した。その後自分なりに作品を読み解く入り口を探し、それを「問い」の形にして設定することから開始した。生徒には次のような提示をし読解の入り口となる興味・関心・疑問を問いの形に整理させた。

- I テーマを設定するために「マクベス」においてどのような要素やトピックに興味を持ったか。複数挙げてみよう。
- II Iで挙げたものを問いの形に設定してみよう。
- III テーマを決めよう。IIで問いの形に設定できたものの、考察に広がり期待できるものは何だろうか？
- IV IIIで決めたテーマを掘り下げるために、細かな問いを立ててみよう。

IVの問いは一度クラスで共有し、なぜその問いにしたのかを自分で説明する活動を行った。同じ問いになった生徒も、それぞれ違った理由があり、問いの背景となる「読み」の違いに気づくこととなった。

生徒は自分で立てた問いに基づいて読解を進め、自分の解釈を発表した。発表時間は一人一〇分程度。それぞれの発表において意見が提示され、読みの広がりがあるために、一度の授業では発表数に限界があり、発表は四週に亘った。発表テーマとしては次のようなものがある。

映画は原作をアレンジすることで「人間とは何か」という主題を描いていると私は考える。そしてこの映画における主題は、小説における主題とは全く異なるものなのだ。そもそも小説の中で芥川は、映画のようなメッセージ性を匂わせる「主題」というものを設定していない。それは小説の語り方から推察できる。芥川は、ただいくつかの供述を重ねるだけで一つの作品を成り立たせており、映画中の三人のような、情報を統合させる語りが作中に登場しない。語らないことで、情報を処理しどう捉えるかを全て読者に託しているのである。（後略）

生徒Aの論述から——比較の焦点「主題」の設定とメディアの違いによる読者への影響

	観点A（知識・理解）	規準B（分析）	基準C（構成）
10	学習した作品とテーマについて、多面的かつ優れた理解を示しており、十分に細かくいきとどいた知識がある。	・文学的表現技法（レトリック）あるいは分析の視点の例が鋭い観点をもって特定され、作品に明確に関連した説得力のある分析・解釈が成立している。	・映画と小説を比較するための視点・焦点が明確に設定されている。またそれを活用して、根拠のある論理的な解説を行っている。
8	学習した作品とテーマについて、優れた理解を示し、それを裏付けるに十分な知識がある。	文学的表現技法あるいは分析の視点の例が、明確に特定され、作品に関連した分析・解釈が効果的に説明されている。	・映画と小説を比較するための視点・焦点が明確に設定されている。またそれを活用して、整理された解説を行っている。

「藪の中」課題②評価ルーブリック（部分）

- ・第一幕第一场（魔女の登場場面）と第三幕第五場（魔女とヘカテの登場場面）の存在意義とは何か。
- ・動物が示すものとは——翻訳に左右されない固有名詞「人間」「男」としてのマクベス（父と息子と継承という構図から見るマクベス）

■生徒の成長と今後の課題

本単元での生徒の成長は以下のような点で確認できる。

〈自分で立てた問いの見直し〉

複数の生徒が読解の深まりに応じて問いを修正した。ここには生徒が主体的・自立的に読解を進めている姿を見ることができる。

〈既習事項や知識の関連付けによる読みの深まり〉

例えば世界史で学習したマキャベリの君主論について言及した生徒はマクベスの造形や作品内の君主像に君主論が反映されているのではないかという読解を提示した。別の生徒は「悲劇を悲劇たらしめる要素とは何か」という問いを掲げ、一学期の問いを踏まえて自分の学習をメタに見直そうとしていた。

今後は作品解釈を踏まえて、自分の立てた問いが読解を深めるために適切であったかどうかを振り返らせることとなる。

「文学国語」を設置するために

編集部

本記事で取り上げるパターン

大修館「WEB国語教室」 「新課程国語 履修パターンシミュレーション」より

パターン	履修パターンの概要・ねらい	国語合計単位数
A	情緒を育む教科として「文学国語」を重視	文系…17 理系…15
B	「文学国語」は選択扱いで「論理国語」「古典探究」を優先	文系…13～17 理系…13
C	2学年で「文学国語」を全員履修、文系は「古典探究」、理系は「論理国語」重視	文系…16 理系…13
D	2学年で「論理国語」を優先、「文学国語」「古典探究」は減単位して3学年で	15
E	減単位を活用して「国語表現」以外の3科目をバランスよく履修	文系…15 理系…13
F	「論理国語」「文学国語」を重視、古典はその中で扱う	12
G	「国語表現」を選択科目として設置	12～16
H	進学コースと就職コースに分かれるパターン	進学コース…14 就職コース…12
I	選択科目として「国語表現」を設置し、実社会で活用できる国語力を育成	8
J	進路多様校で生徒のニーズに応じた科目設定	8

小誌では、110号（二〇一九年四月号）にて、「新課程 履修パターンシミュレーション」を掲載しました。その後、「選択科目は『論理国語』『古典探究』しか取れない」「高校で文学が扱えなくなる」という声の高まりを受けて、全国の高校からお寄せいただいた履修パターン試案を元に、「履修パターンシミュレーションVol.2」としてA～Jの10パターンを「WEB国語教室」に掲載しました（二〇一九年十一月）。

本号では、「文学をじっくり扱いたい」という先生方の声に応え、「WEB国語教室」掲載の履修パターンから、「文学国語」の設置を重視したパターン、A・C・Gを取り上げて詳しく解説します。各学校でのご検討のご参考となれば幸いです。

WEB国語教室

「履修パターンシミュレーション」は、こちらから↓



【新科目と標準単位数】

	科目	標準単位数
必修	現代の国語	②
	言語文化	②
選択	論理国語	④
	文学国語	④
	国語表現	④
	古典探究	④

図解凡例

必修科目

選択科目
(全員選択)

選択科目
(自由選択)

○数字は単位数

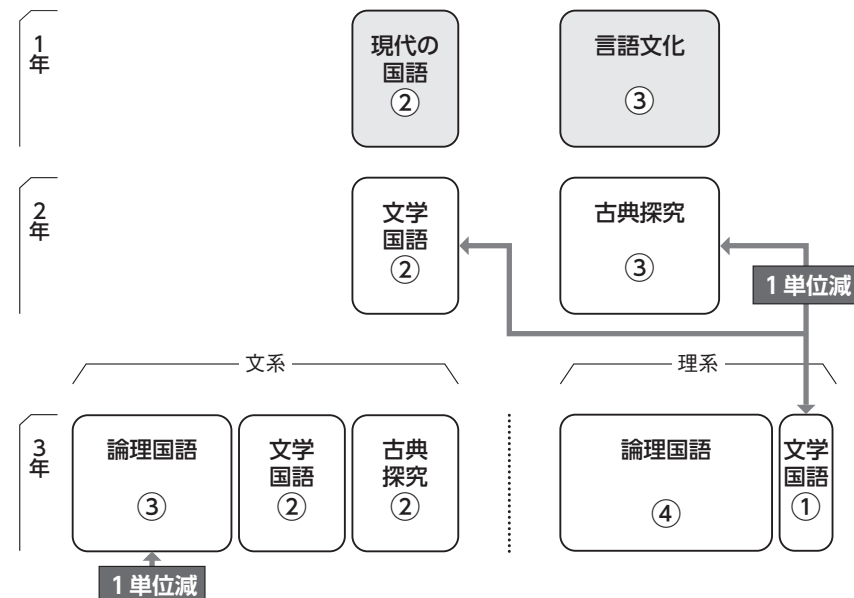
パターンA

全日制普通科

私立高校（進学校）

文系…17単位

理系…15単位



難関大学への進学を目指しつつ、
情緒を育むために「文学国語」を重視

Point

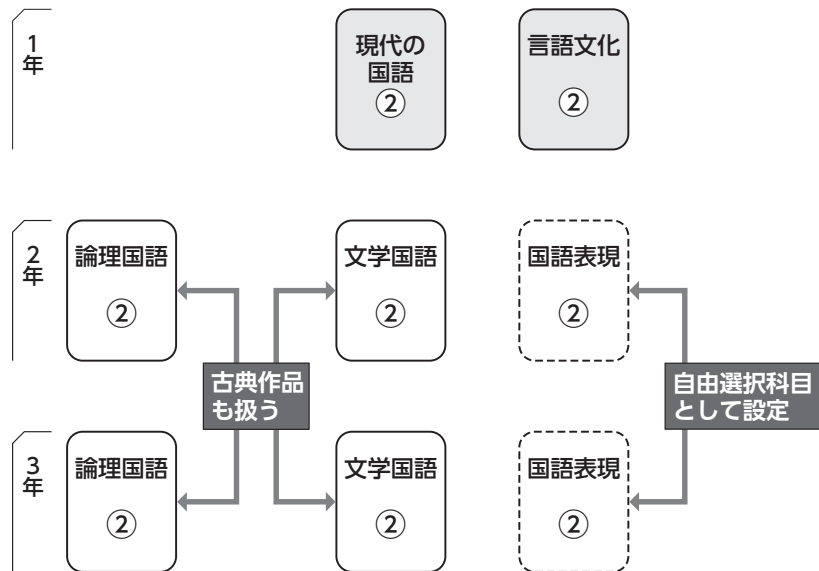
減単位の扱いに注目！

選択科目4科目は、いずれも標準単位数4単位ですが、各教育委員会の判断により、減単位が認められる可能性があります。このパターンでは、文系は「論理国語」、理系は「文学国語」と「古典探究」を3単位に減単位しています。何単位までが認められるか、教育委員会の判断を注視してカリキュラムを編成する必要があります。

- ・三学年から文系・理系に分かれる進学校
- ・二学年は、「文学国語」「古典探究」を全員履修
- ・文系は「論理国語」を3単位に減単位、「古典探究」は5単位に増単位
- ・理系は「文学国語」「古典探究」を3単位に減単位（時間数が捻出できれば、4単位も可能か）

パターンG

全日制普通科
公立高校（進路多様校） 12～16単位



Point

「論理国語」「文学国語」に
古典が入り得る！

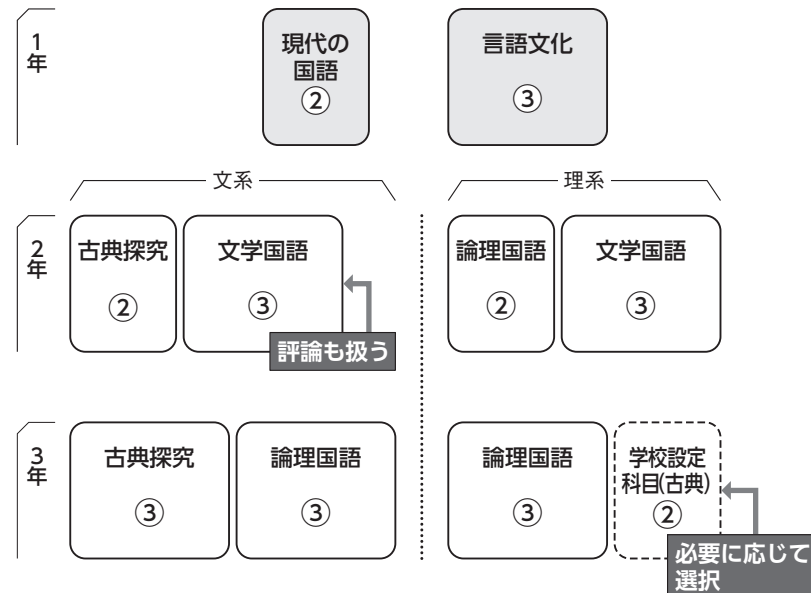
このパターンでは「古典探究」を位置づけていません。しかし、「論理国語」では「古典における論理的な文章」⁽²⁾を、「文学国語」では「古典における文学的な文章」⁽³⁾を扱うことができます。教科書内に古典が位置づけられる場合はそれを活用し、古典に親しませることが考えられます。

(2)『解説』 p.175 参照。

(3)『解説』 p.206 参照。

パターンC

全日制普通科
公立高校（進学校） 文系…16単位 理系…13単位



Point

「文学国語」でも評論文が扱える！

入試での必要性を重視し、文系は「古典探究」、理系は「論理国語」を増単位して扱うプランです。文系の二年生では、「論理的な文章を扱わないわけではなく、「文学国語」の中で文学に関する評論など論理的な文章を扱う⁽¹⁾ことを想定しています。「論理国語」＝評論、「文学国語」＝小説ではない点に留意することが重要です。

(1)『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』（以下『解説』）p.202、206 参照。

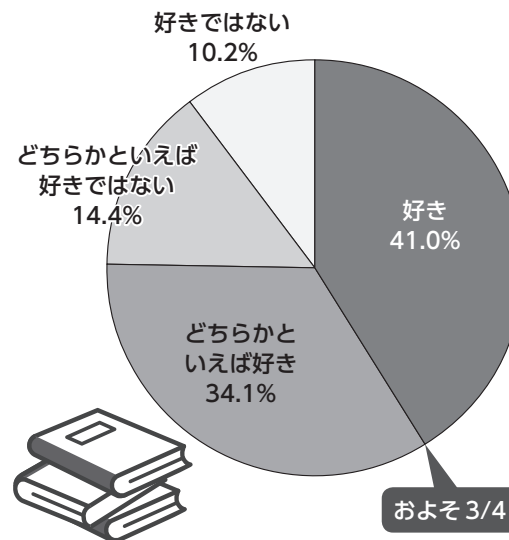
二年生で「文学国語」を全員履修、
三年生は入試で必要な科目に重点化

- ・二年生から文系、理系に分かれる進学校
- ・文系・理系ともに、二年生で「文学国語」を3単位に減単位して全員履修
- ・文系は、二・三年生で「古典探究」を1単位増の5単位履修
- ・理系は、二・三年生で「論理国語」を1単位増の5単位履修

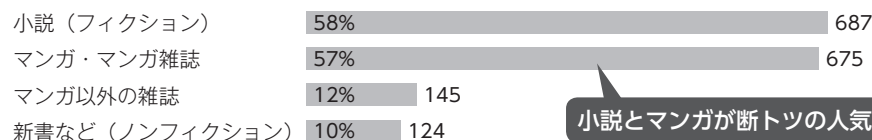
高校生と「読書」「文学」

「文学」に注目が集まる昨今。本や教科書、国語の授業を通じて、高校生は「読書」や「文学」にどう向き合っているのでしょうか。千名を超える全国の高校生に聞きました。

Q1 本を読むことは好きですか？



Q2 どのような種類の本を読むことが好きですか？（複数回答）



■4人に3人は読書好き

Q1で、本を読むことが好きかどうか尋ねたところ、「好き」「どちらかといえば好き」が合わせて75%となりました。高校生の活字離れや「不読率」の高止まりが指摘されていますが、多くの高校生は、読書への興味自体は失っていないようです。学年別では、下の学年ほど「好き」の割合が多くなる傾向が見られました。「好き」の理由としては、「知識や世界が広がるから」「小さい頃から習慣になっているから」などが多く挙がりました。

■小説とマンガが人気

Q2では、実際にどのような種類の本を読むことが好きかを尋ねたところ、小説とマンガが特に人気を集めました。具体的な作品名・シリーズ名、作家名などを自由に挙げてもらったところ、ベスト5は次の通り、マンガと小説に人気が集中しました。

【作品・シリーズ】

- ① 鬼滅の刃
- ② ワンピース
- ③ 君の膵臓をたべたい
- ④ ハリー・ポッター
- ⑤ 進撃の巨人、図書館戦争、約束のネバーランド

【作家】

- ① 湊かなえ
- ② 住野よる
- ③ 山田悠介
- ④ 東野圭吾
- ⑤ タレン・シャン、星新一

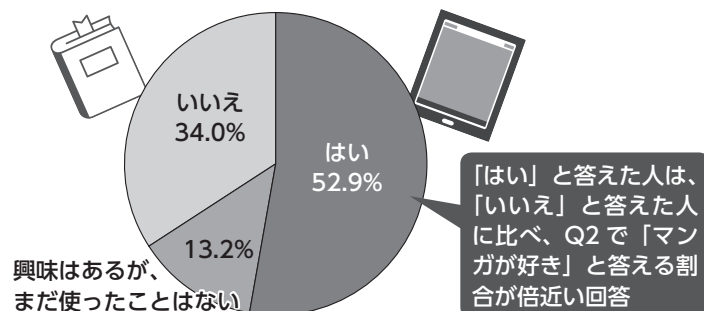
■電子書籍の利用も多い

Q3で、電子書籍の利用状況を探りました。半数以上が電子書籍を利用していると回答。現在利用していない生徒も、その3割弱は興味があるようです。

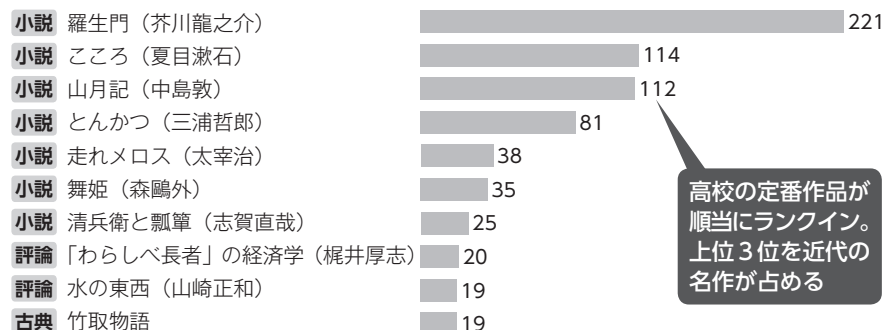
■定番小説の人気根強い

Q4では、教科書で読んでおもしろかった作品を3つまで尋ねました。「羅生門」が突出している点、中学校で扱う作品がランクインしている点は、高校一年生の回答も多かったためかもしれません。やはり、定番の近現代小説に人気が集まる結果となりました。

Q3 紙以外に、スマートフォンやタブレットで本を読みますか？



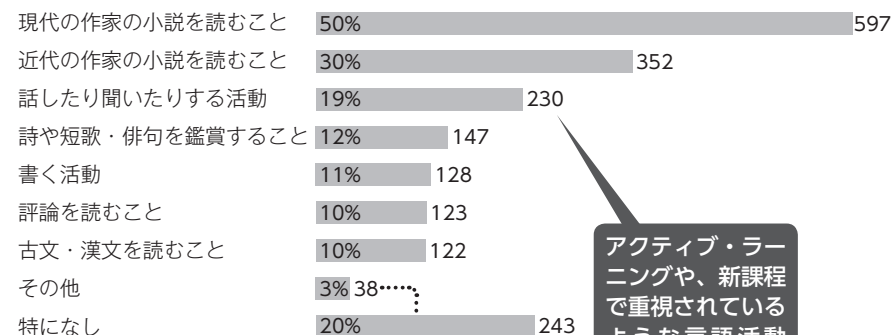
Q4 高校国語の教科書でおもしろかった作品は何ですか？（複数回答）



新学習指導要領も、 新テストも、 (大学入学共通テスト) これで万全！



Q5 国語の授業で、どんなことがしたいですか？（複数回答）



アクティブ・ラーニングや、新課程で重視されているような言語活動も！



【多かった主な回答】

- ビブリオバトル、本の紹介・交流
- マンガを教材にした授業
- 同じ作品で、本と映画、原作と翻訳の比較
- 百人一首
- 試験対策

■調査の概要

【協力校】

- ▽北海道札幌東陵高等学校
- ▽北海道札幌英藍高等学校
- ▽福島県立ふたば未来学園高等学校
- ▽東京都立福生高等学校
- ▽東京都立高等学校（匿名）
- ▽筑波大学附属坂戸高等学校
- ▽千葉明德高等学校
- ▽長野県長野吉田高等学校
- ▽檀山女学園高等学校
- ▽滋賀県立守山高等学校
- ▽大阪府立今宮高等学校
- ▽岡山県立勝山高等学校藤山校地
- ▽宮崎県立都城工業高等学校
- ▽鹿児島県立鹿児島東高等学校

【調査時期】 2019年10～11月

【回答総数】 1,189名

▽1年＝351名、2年＝130名、
3年＝703名、4年＝5名

【最大誤差】 ±2.8%

■「話す・聞く」にも一定の支持

最後に、国語の授業でしたいことを尋ねました。ここでも、小説を読むことに人気が集まりました。新課程でさらに重視される「話したり聞いたりする活動」は、「評論を読むこと」に比べ倍近い支持。その他として、「話し合いやグループ活動がしたい」との要望が複数挙がったのも、新しい時代の国語の授業を反映しているようです。

ご協力いただいた先生方、高校生の皆様、ありがとうございました。

大きく見やすいサイズで国語の世界に親しむ

New! 便覧活用の幅がさらに広がる、充実のサポート

準拠問題集 新傾向問題付き B5判・64ページ 生徒用

『ビジュアルカラー国語便覧』と合わせて使える問題集。解答付き。

【語彙編】 漢字、熟語、慣用句、敬語・言葉遣い、重要古語・漢語
【事項編】 古典常識、百人一首、文学史(古典／近現代文学)ほか

準拠 CD-ROM にも
全問題データを収録!

まなび動画 Navi 生徒用

スマホ・タブレットなどで
視聴できる関連動画や
音声を紹介。

- 古典の世界
- 最新時事問題
- 作家本人による朗読
- 作家・作品紹介 ほか

New!

準拠 CD-ROM 指導用

授業で活用できるデータを満載!

New! ● まなび動画活用ワークシート
New! ● 新傾向&アクティブ・ラーニング
 対応ワークシート

- 小論文のためのワークシート
- 本文データ ● 画像データ
- 準拠問題データ ● 教科書教材対照表

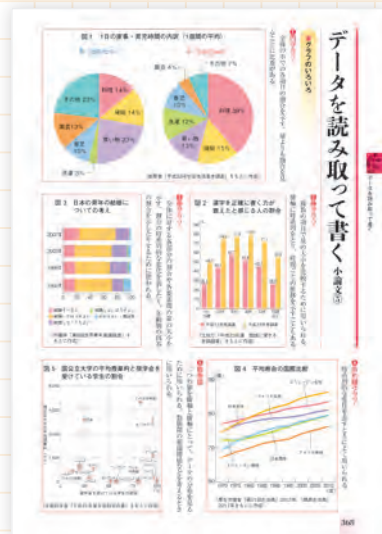
ビジュアルカラー 国語便覧

大修館書店編集部 [編]
 B5判・496ページ・オールカラー
 本体 880 円+税



書く力・語彙力

「書く力」と、それを支える確かな語彙力が重視される新学習指導要領。『ビジュアルカラー国語便覧』は、語彙力と表現力の基礎から応用まで無理なく身につく「言葉と表現編」が充実しています。



図表・データ

統計データやグラフの読み取り、それらをふまえてレポート・小論文を書くためのページが充実しています。

言語文化・ 探究学習

古典から現代につながる伝統的な言語文化を視覚化したページを豊富に掲載しました。
 アクティブ・ラーニング、探究学習に活用することができます。

New!

便覧活用の幅がさらに広がる、充実のサポート

準拠問題集 新傾向問題付き

B5判・64ページ 生徒用

『トータルサポート新国語便覧』と合わせて使える問題集。解答付き。

【語彙編】漢字、熟語、慣用句、敬語・言葉遣い、重要古語・漢語

【事項編】古典常識、百人一首、文学史(古典／近現代文学)ほか

準拠 CD-ROM にも
全問題データを収録!

まなび動画 Navi

生徒用

CD-ROM

準拠 CD-ROM

指導用

授業で活用できるデータを満載!

New!

New!

まなび動画活用ワークシート

新傾向&アクティブ・ラーニング
対応ワークシート

小論文のためのワークシート

本文データ 画像データ

準拠問題データ 教科書教材対照表

書く力・語彙力

「書く力」と、それを支える確かな語彙力が重視される新学習指導要領。『トータルサポート新国語便覧』は、語彙力と表現力を養う「言葉の知識編」「表現編」が充実しています。

図表・データ

統計データやグラフの読み取り、それらをふまえてレポート・小論文を書くためのページが充実しています。

トータルサポート 新国語便覧

大修館書店編集部 [編]
A5判・608ページ・オールカラー
本体 880 円+税

言語文化・ 探究学習

古典から現代につながる伝統的な言語文化を視覚化。
巻頭・巻末、各編の冒頭に、探究学習につなげられる特集ページを豊富に掲載しました。

新全訳古語辞典



林巨樹・安藤千鶴子〔編〕
B6判・1,232ページ・2色刷
本体 1,800円＋税

語彙・文法

新テストでも、重要古語や古典文法の正確な理解力は引き続き求められます。『新全訳古語辞典』なら、ビジュアルな工夫や丁寧な解説で、語彙・文法の力を確実に身につけられます。

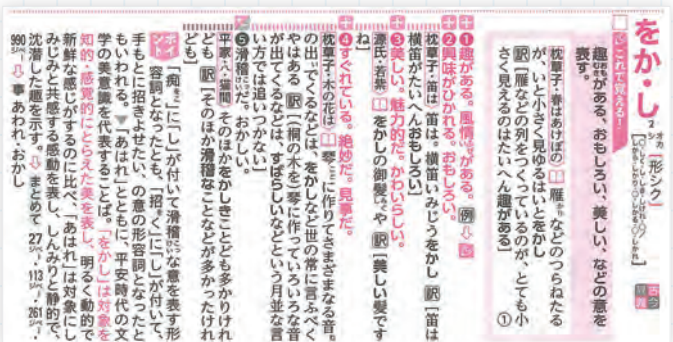


辞書120%活用アプリ!



動画 × ドリル
アプリサービス付き!

動画 ベリタス・アカデミー阪田先生の「古文文法・重要語活用講義」
ドリル 「例文で覚える重要古語ドリル」ほか



和歌・古典常識

「言語文化」がいっそう重視される新学習指導要領下では、和歌や古典常識への理解力も試されることになります。『新全訳古語辞典』は、和歌・古典常識・文学史に関わる3つのミニ事典を収録。楽しく学べます。

明鏡国語辞典

第二版



北原保雄〔編〕
B6変型判・1,954ページ＋別冊 96ページ
本体 2,900円＋税

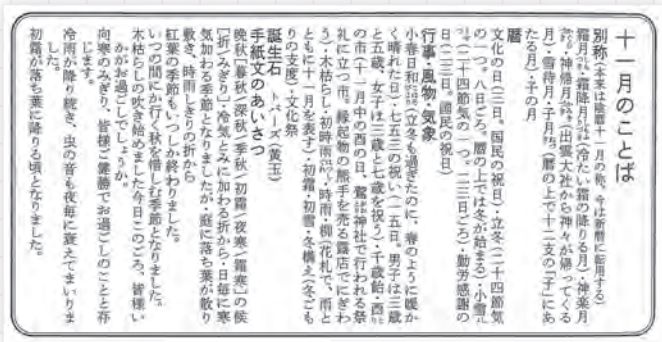
語彙力

確かなことばの力は、テストが変わっても引き続き求められる、大切な基礎力です。画期的な別冊索引や、定評のある丁寧な解説で、確実に語彙力を身につけることができます。

さん・せん「琴線」(名)①琴の糸。②物事に感動し共鳴する胸奥の心情。「心の隅に触れる話」(34頁)「琴線に触れる」を触れられたくないこと、不快な話題に触れる意で使うのは誤り。「×私の一言が彼の琴線に触れたのか、急に怒り出した」

「極まる」と「窮まる」の使い分け
極まる 469
極み ④ 469
極める
「極める・窮める・究める」の使い分け
極める 469
琴線に触れる
間違えやすい「琴線に触れる」の意味
琴線 ② ④ 474

別冊「明鏡 問題なことば索引」から、間違えやすい用法、敬語などを引ける!



言語文化

新テストに向けたモデル問題例では、「日本の言語文化に特徴的な語句」の知識をふまえた出題も見られました。『明鏡国語辞典』は、さまざまな観点で言語文化にふれられるコラムが充実しています。

辞書120%活用アプリ!



動画 × ドリル
アプリサービス付き!

動画 サンキュータツオ校閲室長の「明鏡校閲室へようこそ」
ドリル 「明鏡 ことばの達人ドリル」ほか



新漢語林

第二版

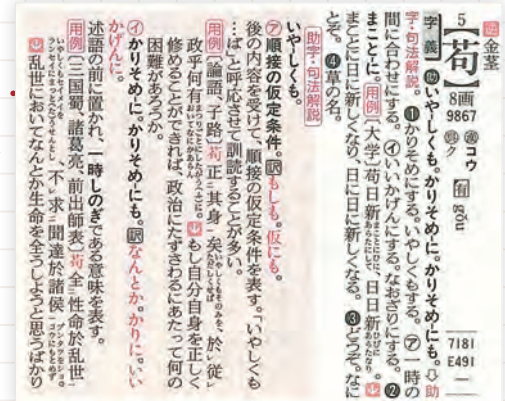
鎌田正・米山寅太郎 [著]

B6判・1,952ページ・2色刷
本体 2,900円+税



語彙・句法

新テスト対策でも、従来の入試と同様に出現される語彙・句法などの理解には、用例を用いてわかりやすく解説している「助字・句法解説」が役立ちます。



言語文化

新テストに向けた試行調査では、日本における中国文化の影響や受容について問われました。『新漢語林』は、漢詩・漢文の理解を助けるコラムが充実。言語文化についての幅広い知識を押さえることができます。

辞書120%活用アプリ!



動画 × ドリル
アプリサービス付き!

動画 見ればキミも漢文がわかる!
塚田勝郎先生の『新漢語林』活用講座
ドリル 「例文で覚える漢文重要語ドリル」ほか

青山あり!

中国祠墓紀行

「WEB国語教室」連載

第一回 唐玄宗泰陵(陝西省蒲城縣)

文と写真 平井 徹

慶應義塾大学講師 (中国文学)



◆DATA
人物：玄宗 (685-762)。唐の第六代天子。諱は李隆基。
墓所：陝西省渭南市蒲城縣、県城の東北18km
アクセス：東京 ▶ 4.5h 西安 ▶ 3h 蒲城
あわせて行きたい：乾陵 (陝西省乾縣)、楊貴妃墓 (陝西省興平縣)

唐の玄宗皇帝(六五七三)。唐の第六代天子。諱は李隆基。王朝の内紛「武韋の禍」を収め、颯爽たる皇太子として史上に登場、即位後は「開元・天寶の治」を現出させたが、晩年、楊貴妃を寵愛し政務を怠ったことが「安史の乱」を引き起こし、憂悶のうちに世を去った。中国歴代皇帝の中でも、抜群の知名度を誇る人物である。

唐代に擁立された皇帝は二十一名おり、皇帝として崩じたのは十九名。うち一名を除く十八名の陵墓を総称して、「唐の十八陵」と呼ぶ。それらは、唐都長安(現在の陝西省

西安市)を擁する関中平原の北に東西のラインを画す北山山脈の南麓にほぼ直線状に点々と分布しており、玄宗の「泰陵」はその最東端に位置している。一部の皇族、功臣の「陪葬墓」を除き、いずれもまだ発掘されていない。

泰陵は、省都西安市内中心部から約一三〇キロ、陝西省渭南市蒲城縣、県城(県を中心街)の東北十八キロ、保南郷石道村にある。陵の周囲は三十六キロ、唐長安城とほぼ同じという。『旧唐書』玄宗紀によると、玄宗がかつて自ら「五陵」を拝し、父睿宗の「橋陵」に至った時、近くの



▲清の乾隆年間に立てられた石碑。「唐元宗泰陵」と刻まれている(2009年撮影)



▲高力士墓の内部。17年の再訪時には閉鎖されていた(2009年撮影)



▲整備された「神道」(2017年撮影)

金粟山が「龍が蹲り鳳が天翔ける」(龍盤鳳翥)地勢であるのを見て、左右の臣に「吾千秋の後、宜しく此の地に葬るべし、先陵を奉ずるを得て、孝敬を忘れず」と言い置いたという。死の翌年、代宗皇帝(肅宗の子、玄宗の孫)の広徳元年三月に葬られた。

西安を訪れる人は多いが、泰陵まで足を延ばす人は稀であらう。私はここに二〇〇九、二〇一七年と二回足跡を印している。前回はほぼ一日行程の強行軍であった。あとも

う少しというところで道が細くなり車が入れなくなつて、現地の案内人が帰ろうというのを聞き入れず、ちょうど塀を建築中だった農家のレンガを道路に敷き詰めて道幅を確保し、車を進めたことが思い出深い。

泰陵は、多くの皇帝陵がそうであるように、山全体が墓という「山陵形式」である。後ろに金粟山、西南に敬母山、東に臥虎山が聳え、山ふところに抱かれている。二〇〇九年当時、陵へ続くアプローチ「神道」は工事用の車しか入

れない砂利道で、左右の文官武官の石像も、半ば草に埋もれていた。中ほどもで行ったところに清の乾隆年間に立てられた石碑があり、ここだけ少々整地され開けていた。碑には「唐元宗泰陵」と刻まれているが、文字が違うのは、乾隆帝の祖父にあたる先々代康熙帝の諱を避けて、「玄」を「元」字に置き換えたことによる。

この時は、向かう途中で、玄宗の側近で、李白を讒言したことで名高い宦官高力士の墓(榕林郷山西村)を見つけ、地下の墓室まで入れてもらうというおまけもついた。彼が代宗によって玄宗陵に「陪葬」されたことは、新旧両『唐書』に記載がある。

再訪時は、西安から蒲城までの高速道路を利用して、二、三時間でスムーズに到着した。神道もすっかり舗装され観光地化していて、玄宗と楊貴妃の物語を講釈する商売をしている地元の老人の姿が印象的だった。この時は父睿宗の橋陵にも立ち寄ったが、雰囲気はほぼ同じだった。一方で、高力士の墓は閉鎖され、立ち入ることができなくなっていた。

前世紀末、私は留学先の天津に滞在していた。市の旧城内に、今から百年余り前に建てられた「広東会館」(「会館」は同郷者のコミュニティの意)という瀟洒な建物があり、現在は「天津戯曲博物館」として公開されている。内部には



▲芝居の神様となった「唐明皇」(2005年撮影)

立派な「戲台」(芝居舞台)があり、一九一二年には孫文がこの場で演説を行っている。ここの職員と仲が良かった私は、自由に出入りさせてもらっていたのであったが、ふとある時、楽屋裏で何かを祀っているのだと気づねてみたところ、それは「唐明皇」だ、との答えが返ってきた。「明皇」とは玄宗の諡。長安の宮中に歌舞団「梨園」を抱えていた故事によって、また歴代天子の中で民衆の人氣が最も高かったことから、彼は芝居の神様として、今なお信奉されているのである。ちなみに、廟号の「玄」字は、彼が道教を厚く尊崇していたことに由来している(南宋の陸游『入蜀記』に、道服をまとった玄宗の金銅の像が祀られていたとの記録がある)。「玄宗」の名を持つ皇帝は、中国史上、彼一人しか存在していない。

国語表現 × ICT活用 で前提力向上

▼テーマ
SDGs を考える

八千代松陰学園
かなおかたつり
金岡辰徳

ICT教材の普及が進むなか、国語科でのICT活用もより重要になってきました。
今回は、Chromebook と Google フォームを活用し、SDGs について探究した国語表現での実践をご紹介します。
ICTの活用で、生徒の学びはどのように深まったのでしょうか。

ICTの導入からグランドデザイン設定まで

八千代松陰学園では、中高とも Chromebook 一人一台を導入して三年、黒板もホワイトボード映写式へと移行しました。教員側の試行錯誤や研修内容の共有を経て、校内では「ICTグランドデザイン」を設定、これに基づいた学びの展開を心掛けています。

授業計画事例紹介

それでは「国語表現」の授業におけるICT活用事例を紹介

期待できる効果と評価方法

《期待できる効果》

調べる
・ ICTを活用してテーマの前提となる知識を補うこと。

《考える》

- ・ 講義型の授業では網羅しきれない出来事や生徒の疑問を補うこと。
- ・ Google フォームに準備された質問に回答することで、テーマへの理解のステップをふまえて考察する。
- ・ 異なる立場の主張を整理することで、テーマへの理解に近づける。

《表現する》

・ 調べ学習を通じて収集した情報を材料に、意見文のためのメモを作成する。その際、材料となる知識の「前提」が調べ学習の前後で変化していることに気づかせたい。

《評価方法》

テーマ理解

- ・ ルーブリック式
- ・ 生徒自身によるリフレクション
- ・ 教員の添削による

意見文

授業計画

《導入》一時間目

① 「SDGs」について基本項目を調べる。



八千代松陰学園 ICT活用 グランドデザイン

～「わかる授業」・「考える教育」を展開し、生徒一人ひとりの個性を伸ばす教育実践のためのツールとして～

■知識・技能

→自ら情報収集を行う…ほか

■思考力・判断力・表現力

→視聴覚資料による深化、言語活動の充実

情報の検討・整理・分析…ほか

■主体性・多様性・協働性

→自分の意見の主張と相手の意見の受容…ほか

② 直近のニュースから感想をまとめる。

《展開》二時間目

① 「SDGs」を含め、地球環境問題や気候変動についての歴史的経緯を調べる。

② 「日本」「フランス」「アメリカ」の三カ国の立場を整理する。

《発展》三時間目

① 「日本」「フランス」「アメリカ」の三カ国の立場から、国際問題を考察する。

② 意見文のためのメモを作成する。

《結び》四時間目

「SDGs」について「意見文を作成する。(六〇〇～八〇〇字)

生徒の活動内容と反応

《Googleフォームによる発問と回答例》

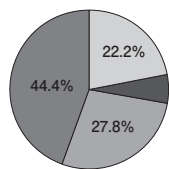
- Q 世界と環境問題を考えるにあたり『パリ協定』について調べ、キーワードを書き出してみよう。
- A 世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする。
- A できるかぎり早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウトし、二十一世紀後半には、温室効果ガス排出量と（森林などによる）吸収量のバランスをとる。
- A 京都議定書の後継で五十五カ国以上が参加する。
- Q Classroomのリンク先より、動画を視聴（約二分）して、環境問題について世界とアメリカの立場の違いについて述べよ。※八〇字程度
- A 離脱すればパリ協定に参加していないのはシリア、ニカラグア、米国のみとなり、米国の同盟国との亀裂が深まる可能性がある。

《二時間目終了段階でのアンケート》

- Q テーマ学習を通じて、キミにあてはまるものは？
- A ・自分の意見を発信できるくらいに学びを深めることができた。…15・9%
- ・調べ学習を通じて主体的に学び、テーマについて理解した。…27・0%
- ・テーマについて理解したものの、まだまだ探究する必要がある。…38・9%
- ・テーマの内容が理解しきれず、自分の意見を持つことが難しい。…18・2%
- Q Chromebookを使う学習について、キミにあてはまるものは？
- A ・疑問点を自分で解決しやすく、考えながらテーマを探究できる。…27・8%
- ・与えられた質問をクリアにすることで、理解に結びつきやすい。…44・4%
- ・与えられた質問で精一杯、理解まで到達できていない。…22・2%
- ・機器の操作に手いっぱい、情報を収集することができていない。…5・6%



Q. Chromebookを使う学習について、キミにあてはまるものは？ 36件の回答



- 疑問点を自分で解決しやすく、考えながらテーマを探究できる。
- 与えられた質問をクリアにすることで、理解に結びつきやすい。
- 与えられた質問をクリアすることで精一杯、理解まで到達できていない。
- 機器の操作に手いっぱい、情報を収集することができていない。

指導上の留意点

テーマに対する生徒の動機はさまざまです。ましてや大学のレポートを参照することに興味を持たない生徒もいるはずでしょう。教室内では、適宜ペアワークや質疑の時間を取り入れつつ、作業に遅れがちな生徒をつくらないように心がけました。また、二時間目終了段階でGoogleフォームを用いた生徒向けアンケートを実施し、学習効果や進捗状況を確認しつつ、三時間目以降の授業展開を修正して進めました。

授業後の考察

地球環境問題や「SDGs」といったテーマとなると、講義形式の授業では網羅的になり、生徒の活動を収縮させる傾向に陥ってしまいがちです。その点、ICTを活用した展開であれば、生徒が与えられた質問に回答するという能動的姿勢を保ちつつ一定の情報量に触れさせることが可能です。Googleフォームの特性を活かして、必ず触れておきたい知識のステップを踏ませる発問の仕組みを構築したいと考えます。

二時間目終了時点でのアンケートによれば、議論可能な程度に理解した生徒は四割、テーマ設定としては、易しすぎず妥当なのかもしれませんが、残り六割は意見文を書く段階にありません。そこで三時間目には、四時間目へのブリッジとして「日本」「フランス」「アメリカ」それぞれの立場を整理

しつつ、国際社会の多様性や世界規模の政策における困難な状況について考えさせるよう、授業案を修正しました。生徒の反応を集約して即時検討できるのも、ICT活用の利点です。

「前提力向上」を意識した展開の中で

今回のテーマに限らず、国語表現の授業では、テーマ理解や必要とされるインプットが不足状態のまま意見文をまとめることもあるでしょう。言い換えれば、テーマを論じるための前提力を欠いたまま論述させてしまうケースであり、知識や事実を学んだ上で取り組ませることはいつもできることではありません。その点ICTを活用して、動機づけから発問までを仕込んでおくことさえできれば、生徒は自身の活動を通じてかなりの情報量を用いることができます。あとは発問について、生徒が能動的であり続けられる分量に気をつけ、作業で手いっぱいにならないようにしてやることです。日々試行錯誤ではありますが、Chromebookを使う学習に関するアンケート結果では、七割の生徒が肯定的かつ前提力の向上に結びつく活動を実感していることがわかります。ICT操作の段階で手いっぱいになる生徒を予め想定しておき、声掛けをしながら授業展開できれば、別テーマでの学習も成立させることができるでしょう。

紫式部にファンレターを書こう①

おおくら ひろし
大倉浩
筑波大学教授

第三回では、紫式部にファンレターを書くという課題を出しました。今回はその続きです。

課題 紫式部の時代の手紙はどう書くのか。

実は、紫式部の本名も生没年も未詳です。漢学者藤原為時の娘で、夫藤原宣孝と死別し、一条帝の中宮である彰子に仕え『源氏物語』『紫式部日記』を残したことは知られています。しかし、出生や宮仕え後のことなどについて確実な記録は残されていないようです。とりあえずの宛先は、京都の内裏の「中宮彰子様方」にして、内容に取りかかりましょう。

ファンレターのような私的な手紙なら、当時は「消息」というべきでしょうが、手紙の作法は、互いの身

分や内容、時代によっても違ってきます。古典の教科書では、かぐや姫が帝に書いたお別れの手紙の一節が『竹取物語』の中で採り上げられていると思います。

この国に生まれぬるとならば、嘆かせたてまつらぬほどまではべらむ。過ぎ別れぬること、かへすがへす本意なくこそおぼえはべれ。……

帝宛てなので敬語も多いのですが、現在の手紙で「です・ます」を使うように、文末に「はべり」が使われています。これは参考になります。他にも、時候の挨拶は？ 頭語は「拝啓」でよいのか？ など、作法についてはきりがありません。それはそれで興味深いのですが、この講座の目的である文法から少し離れてしまうので、川村裕子『王朝の恋の手紙たち』（角川選書）を参考にあげておきます。

さて文面です。まずは名前を名乗らなくてはなりま

せん。前回の名前変換を使います。

私は東京都大修館高校教員の鈴木祐介です。

【古文訳】

われは武蔵の国大修館高校講師のすゞきのいうすけにてはべり。

「東京都」では紫式部にわからないでしょうから、教科書の古典地図や便覧を使って当時の地名に換えました。「です」にあたるのが「にてはべり」。断定の助動詞「なり」に「はべり」を接続させるには、古典文法の知識が必要です。「なり」の連用形「に」に接続助詞「て」を付けて「に・て・はべり」となります。そして、自分がファンであることを伝えなくてはいいけません。例えば、

あなたの書いた「きりつば」を読みました。死んでしまう桐壺更衣がともかわいそうでした。

と感想を伝えるとすれば、さあどう訳しましょうか。「英語に訳すほうが簡単だ」と思った方も多いかもしれませんが。それは、英語学習は英作文も勉強するのに、古文については、現代語訳という解釈しか勉強しないからです。逆方向の古文作文は勉強しないので、学んだはずの古典文法もうまく機能しないのです。何

ともどかしい気分です。そこで、

課題 現代日本語を古語に訳してみよう。

英作文の際に助けになるのが和英辞典、日本語の単語を引くと、同じ意味の英語の単語や関係する表現を示してくれる辞書です。古文作文ですから、現代の日本語を引くと同じ意味の古語や表現が出てくる辞書、つまり「現古辞典」があると便利です。

しかし、古語を現代日本語で説明した「古語辞典」はたくさんあるのに、「現古辞典」はあまりありません。そのなかでは、歌人である芦生公男さんが編んだ『現代語古語類語辞典』（三省堂）が本格的です。もともととは作歌のために古語を整理することから生まれた辞書ですが、「あなた」を引くと、二ページにわたって時代別・身分関係別に、古語での第二人称代名詞が示してあります。ここではこの辞書を参考に「あなた」を「おもと」と訳してみます。ただ、こうして自立語を訳しても、文に仕上げるためには、やはり古典文法が必要になります。その話は次回。



古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/media/>

はかなく消える「見果てぬ夢」

関根 健一
せきね けんいち

●日本新聞協会用語専門委員。元読売新聞東京本社編集委員。文化審議会国語分科会委員。大東文化大学非常勤講師。著書に「なぜなに日本語」「なぜなに日本語もっこ」(三書堂)、「ちびまる子ちゃん」の敬語教室(集英社)など。

卒業アルバムの表紙に何か素敵なタイトルを付けたいと、生徒たちが意見を出し合っています。「夢」という言葉を入れたフレーズにしたいようです。「私たちの夢」ではありきたり。「夢をかなえよう」では? 「夢に向かって」はどうか。そう、だ、「見果てぬ夢」なんてどうだろう。……いや、それはやめておいた方がいいでしょう。

*

「見果てぬ」は「見果つ」(最後まで見る)の打ち消しで、「最後まで見ることができない」の意味になります。「見果てぬ夢」は最後まで見られない夢、そこから、永久に実現できない計画を表します。ミュージカル「ラ・マンチャの男」のテーマ曲「見果てぬ夢」の原題は“The Impossible Dream”(不可能な夢)です。いつか夢が実現する

と信じて進んでいくのではなく、決して実現しない夢を追うがゆえに、ドン・キホーテは滑稽で、雄々しく、悲しくて美しいのです。心を揺さぶるメロディーにのせて朗々と歌い上げられるので、聴いていると明日への希望があふれてくる思いがしますが、歌詞には「太刀打ちできない敵」「耐えられない悲しみ」「届かない星」といった否定を表す語が付いた言葉が続きます。

「見ることができない」のだから、「見果てぬ夢に終わった」のように、心残りであることをたてるのが本来の用法です。「見果てぬ夢をかなえない」「見果てぬ夢を探し求める」などと、夢をあきらめない意で使うのは誤用でしょう。卒業アルバムのタイトルにするにはちよつとふさわしくなさそうですね。

動詞連用形に付く「〜果てる」は、「困り果てる」「あきれ果てる」「愛想もこそも尽き果てる」など、「すっかり〜する」の意ですが、『明鏡国語辞典 第二版』は「多くマイナスに評価している」と注釈を付けています。そのため反対の「果てぬ」について、何となくプラスの語感を抱いてしまうというところもあるのでしょうか。

*

古くは、眠って見ていた夢を、目が覚めてしまい、最後まで見られなかったという意味で「見果てぬ夢」が使われている例があります。

命にもまさりて惜しくあるものは見はてぬ夢の覚むるなりけり(壬生忠岑・古今集)
鳴く鹿の声に目覚めてしのぶかな見果てぬ夢の秋の思ひを(慈円・新古今集)

元来は睡眠中に見るのが「夢」で、そこから非現実的な空想やはない出来事、心の迷いといった意味も生まれました。いつかは実現させたいと抱く思いを指すようになったのは、近代になってからのようです。こうした「夢」の持つ曖昧な多義性とも相まって、「見果てぬ夢」のフレーズに

ロマンチックな雰囲気を感じてしまうのかもしれませんが。

*

アスナロ(翌檜)という木があります。ヒノキ(檜)の仲間で、ヒノキによく似ていますが、材質は少々劣り、そこから「明日はヒノキになろう」と頑張っている、という意味で名付けられたとされます。「明日こそは」の希望を胸にひたむきに努力するイメージを浮かべる人もいるでしょう。でも、ちよつと意地悪い見方かもしれないませんが、アスナロは、ヒノキになりたいと思っても、結局はなれない、希望はかなわないのです。

井上靖の小説「あすなろ物語」は、立身出世の成功物語ではありません。アスナロの木になぞらえて、望みを果たせず、もがき、劣等感に悩みながら生きて行く姿を描いた自伝的小説です。アスナロは「見果てぬ夢」の象徴ともいえるでしょう。

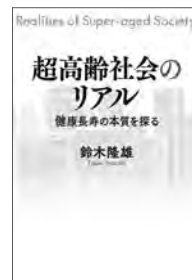
*

どこことなく感じのよい字面、語の並びが、言葉の本当の意味を見えにくくしているということもあるのです。

鈴木隆雄 著

超高齢社会のリアル

健康長寿の本質を探る



四六判・並製・二八八ページ
定価Ⅱ本体一九〇〇円十税

評者Ⅱ脇山真木
翻訳家・ジャーナリスト

アメリカでは、四〇の大学に老年学の修士過程がある。対して世界に先駆けて、超高齢化という人類未踏の領域に足を踏み入れた日本では、桜美林大学一校のみで、著者は同大学の教授かつ老年学研究所の所長である。本書では、「超高齢社会成立の歴史」「課題」「二〇三〇年予測」「地域包括ケアシステム」「認知症」「死生観」など、「超高齢社会の現実」が科学的な根拠に基づいて解説されている。文は人々というが、素直に耳を傾けなくなる温かな啓蒙は、著者の

人柄ゆえだろう。しかし指摘は鋭く、特に良い人生を送るための手段である健康が、今や一人歩きし、人生の目的化したこと、健康寿命の先に「不健康寿命期間」が必ず存在する認識がないことなど、覚醒させられた。また、教育は認知症発症に関わる「認知予備脳」に影響する要因で、高学歴や知的に複雑な職業に従事する者は認知症発症率が低く、生涯学び続ける者は、発症を先送りできる可能性があるという。本書は、超高齢化時代の「学問のすすめ」ではないだろうか。

佐渡島紗織・嶋田大海・Diego Oliveira・Nicholas Delgado 著

レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド

近刊

A5判・並製・一〇〇ページ
予価Ⅱ本体一三〇〇円十税

評者Ⅱ小崎祐子

レポートや論文のような学術的文章を書く上で、「引用」は重要な技術の一つだ。自説の説得力を高めるために有効であるだけではない。「巨人の肩の上に立」ちつつ、その上に新しい発見を示すことが目的の学術的文章にとって、適切かつ効果的な引用は、その核心となる技術ともいえる。

著者たちは、早稲田大学のライティング・センターで文章作成に悩む学生たちを指導してきた。その経験から、多くの学生の「書けない」という悩みの根

本に、さまざまなレベルで「引用」の問題が横たわっていることに気づいたという。本書は、その問題を解決するために、豊富な具体例とやさしい語り口で、引用の意義や方法を縦横に解説したテキストだ。高校現場でも、次期学習指導要領では「書く力」がいっそう重視されている。今まで、「剽窃はダメ!」でも「引用は見よう見まねで!」くらいしか言われてこなかった「書くこと」の指導にも、大いに参考になるだろう。

朝倉隆司 監修／竹鼻ゆかり・馬場幸子 編著

教師のためのスクールソーシャルワーカー入門

連携・協働のために



A5判・並製・一六〇ページ
定価Ⅱ本体一八〇〇円十税

評者Ⅱ中村 歩

「服が汚れている」「最近痩せた」といった子どもの変化に気づくのは教員だが、その背後にある貧困や虐待、発達障害といった課題に教員だけで対応することは難しい。様々な専門家と連携する「チーム学校」は、多職種でこうした課題解決にあたるという教育施策である。

はいまだ多いとされる。そんな教員に向けて、教育の専門家が編んだのが本書である。SCとSSWの違いや相談するタイミングといった基本的事項から、冒頭にあげた課題別事例まで、教員がSSWと連携協働するために必要な事柄がコンパクトにまとめられている。教員が課題を一人で抱え込んだり、SSWに丸投げしたりすることなく、子どものウェルビーイング実現のためにどう取り組むべきか。本書が示唆するのは多い。

塚田勝郎 著

漢文指導入門講座

新人教師のための

近刊

B5判・並製・一六〇ページ
予価Ⅱ本体二四〇〇円十税

評者Ⅱ夏目 京

漢文指導に悩む先生方に、まとも朗報である。指導歴四〇年のベテラン教師から次世代へ、漢文指導のノウハウを伝授するテキストの第二弾ができた。漢文訓読の基礎を習得した生徒に向けて、複雑な文を正確に読む力、長文の概略を押さえる力、さらには漢文を読むことをとおして主体的に考える力を身に付ける指導法を紹介する。

筆者は、受験テクニクに陥りがちな旬法指導について、使役・受身・疑問・反語を「四大旬法」として指導内容を絞る。

高校生が躓きやすい反語の訳し方については、付属の講義動画による丁寧な解説が付き、実践的に学べるのもありがたい。教材編では、『史記』『廉頗・藺相如列伝』『長恨歌』など、高校時代に触れておきたい名作を取り上げる。定番の『論語』は中島敦の小説「弟子」と読み比べることで、新たな授業の切り口が見えてくる。主体的に考える授業は、正確な読みに支えられてこそ実現できる。改めて漢文教材活用の可能性を感じられる一冊だ。

News & Topics

国語・教育に関わる情報と
授業に役立つ話題を集めました。

大学入学共通テスト

文部科学省は11月1日、2021年から導入される大学入学共通テストについて、英語への民間試験の導入を見送った。これに伴い、2021年の大学入学共通テストでは「読む」と「聞く」の2技能を測るため、リーディングとリスニングをマークシート式で出題することになった。

なお、英語民間試験を大学独自に活用することは認められており、活用状況については、文科省ホームページの特設サイトで公表予定である。

教育行政関係

- 体力・運動能力調査結果公表 (10/13)
- 問題行動・不登校調査結果公表。2018年度の認知されたいじめ件数は54万3933件。(10/17)
- 国語に関する世論調査結果公表(10/29)
- 大学入学共通テスト、英語民間試験導入延期を発表 (11/1)
- 教員の変形労働時間制導入を柱とする「教職員給与と特別措置法」改正案成立 (12/4)
- 大学入学共通テスト、国語・数学の記述式導入延期を発表 (12/17)

時事

- 源氏物語、定家の写本発見 (10/8)
- ノーベル化学賞、リチウムイオン乾電池開発の吉野彰らに授与を発表。(10/9)
- ノーベル文学賞、ペーター・ハントケに授与を発表。公表が見送られていた2018年文学賞はオルガ・トカルチュク。(10/10)
- 即位礼正殿の儀 (10/22)
- 公文書の日本人のローマ字表記を原則「姓一名」に (10/25)
- 世界遺産の首里城が正殿など焼失 (10/31)
- ◇「今年の漢字」は「令」(12/12)

また大学入学共通テストでは、新たに国語と数学に記述式問題が導入される予定になっていたが、12月17日に延期が発表された。

記述式問題に関しては採点者の質の確保、公平性、自己採点の不一致率の高さなどの問題が指摘されていた。テストの形式も含め、今後の動きが注目される。

国語に関する世論調査

文化庁は10月29日、2018年度の「国語に関する世論調査」を公表した。

が指摘されている。

教職員給与と特別措置法改正案成立

12月4日、変形労働時間制（勤務時間を単位で調整可能）を公立学校で導入可能とする「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」改正案が可決、成立した。夏休みなどの長期休業中

に集中して休日確保を促すもの。また同改正法では、教員の残業時間の上限を定めているガイドラインを、「指針」に格上げし、法に基づいた業務改善を求められるようにしている。

(https://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/detail/1421396.htm)

研究会・展覧会だより

日本方言研究会 第110回研究発表会

〔日時〕2020年9月15日（金）

〔場所〕立正大学 品川校舎

〔問合せ〕<http://dialectology.jp.org/>

日本語学会 2020年度春季大会

〔日時〕2020年9月16日（土）・17日（日）

〔場所〕東京外国語大学

〔問合せ〕<https://www.jpling.gr.jp/>

全国大学国語教育学会 第138回島根大会

〔日時〕2020年9月30日（土）・31日（日）

〔場所〕島根大学 松江キャンパス

〔問合せ〕<https://www.itsj.org/>

全国漢文教育学会 第36回大会

〔日時〕2020年9月27日（土）・28日（日）

〔場所〕岩手大学

〔問合せ〕<http://www.zenkankyo.gr.jp/>

日本国語教育学会 第83回全国大会

〔日時〕2020年9月20日（日）・21日（月）

〔場所〕筑波大学附属小学校

〔問合せ〕<http://nikokug.org/>

ユネスコ無形文化遺産 特別展「日本の伝統芸能——歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界」

〔日時〕2020年3月10日～5月24日

〔場所〕東京国立博物館 表慶館

〔問合せ〕<https://www.tnm.jp/>

源氏物語、定家の写本発見

冷泉家時雨亭文庫は10月8日、源氏物語の写本のうち、藤原定家が自ら校訂した写本「定家本（青表紙本）」の「若紫」が新たに見つかったと公表した。定家本は過去に四帖確認されており、いずれも国の重要文化財となっている。今回発見された「若紫」は三河吉田藩の藩主大河内家に伝わったもの。「若紫」は教科書にも掲載される帖であり、今後の研究や教育にも影響する可能性

言葉の表記に関しては、「又は」（28・2％。公用文表記）「または」（65・0％）「こみ」（20・8％。公用文表記）「ヨミ」（73・0％）の表記などで、公用文の表記ではないほうをよいと感じていることがわかった。また、読書に関しては一か月に一冊も読まない人の割合が47・3％。電子書籍の利用率は25・2％で、紙の本しか読まない割合は38・7％、両方読まない割合は35・1％だった。

(http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/)

私は地元である群馬県を担当しております。群馬県には八〇年近く受け継がれている上毛かるたという郷土かるたがあります。県の地理や歴史、そして文学者などをわかりやすく詠ったもので、県民は幼少時から覚えて慣れ親しんでいます。近年は、大人の上毛かるた大会へも全国から参加者が集まります。まさに県が誇る伝統教材です。年号も令和になり、今年はいよいよ東京でオリンピックとパラリンピックが開催されます。グローバル化する日本に合わせ、上毛かるたも英語版が発売されました。ご興味のある先生方には、一度お手に取っていただけたら光栄です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願っています。

東京支店 木暮弥生



二月で入社一年を迎えます。現在、私は大阪府を担当しております、久しく訪れることのなかった母校も担当校となりました。卒業してから数年、久しぶりに校内に入ると、綺麗になったグラウンドや教室にとっても驚きました。

当時の先生方は、残念ながらご退職された方が多いと伺いましたが、他校への営業の際、たまたま恩師をお見かけしたことがあります。先生は全く気づかれていない様子で、何度か声をおかけしようと思いましたが、恥ずかしさから、今でもできずにおります。いつか直接、お世話になった御礼をお伝えしたいと思います。まだまだ時間がかりそうです。

大阪支店 富田早紀



文学は、「ほんとうの世界」を見せしてくれるもの。苦野一徳先生が寄せてくださったエッセイ。入社後、初めて受け取ったご原稿になりました。

特集「文学の魅力再発見」を組むことになり、これまでの自分と文学との付き合いを思い返してみました。教科書で好きだった作品は、ヘッセ「少年の日の思い出」、魯迅「故郷」。でも、どちらも中学校の作品。高校は？というところ、やはり「山月記」でしょうか。

国語の授業では、何時間もかけて登場人物の心情や作品の歴史的背景を見つめます。だからこそ、登場人物の一挙手一投足が、今も頭の隅に残るのでしょう。最後の、李徴の物悲しい後ろ姿は、教室の風景と一緒に目に焼き付いています。でも、李徴の言っていることが理解できたのは、最近のような気も……。

あれ？李徴って、後ろ姿を見せたっけ？教科書を見ると、「また、もとの叢に躍り入って」姿が見えなくなった、とあるのみ。……もう一度、ゆっくり読んでみようと思います。

(原)

【投稿規定】

国語教育や国語の授業に関する具体的な提案、実践記録、教材研究など、投稿を募集しています。四〇〇字×六〜一二枚（九字×二六一行）程度。（紙幅等の都合により掲載できないこともあります。ご了承ください）。

国語教室 第112号
2020年2月10日発行

国語教室編集室
鈴木一行
広研印刷株式会社
株式会社大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1
電話 03(3868)2651(販売部) 03(3868)2291(編集部)

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp>